

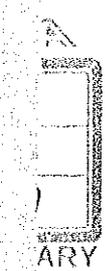
ゆーかり

第20回移住者子弟一般技術研修員
研 修 レ ポ ー ト

1992年11月

国際協力事業団

移 国
JR
92-10



ゆゑかり

第20回移住者子弟一般技術研修員
研 修 レ ポ ー ト

JICA LIBRARY



1104634191

24978

1992年11月

国際協力事業団

24978

ま え が き

国際協力事業団では、中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し、その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術および知識を修得せしめることを目的に移住者子弟一般技術研修制度を実施しています。

この制度は昭和46年度に開始され、受け入れた研修員は、現在研修中の第21回生および第22回生を含め、総数496名に達しています。

本誌は第20回生（研修期間：18カ月コース平成2年4月～平成3年9月、24カ月コース平成2年4月～平成4年3月）の研修総括報告書をまとめたものです。

研修員は幼い頃両親に連れられて移住した人、あるいは中南米の地で生まれた二世、三世の人達の中から選ばれた者ですが、父母あるいは祖父母が生まれ育った国における研修は単に技術を身につけるということだけではなく、日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっています。研修員諸君は帰国後、日本の社会の中で体得した技術と知識を生かし、移住地および地域社会の発展に貢献するとともに日本および中南米諸国との架け橋となって活躍されることと確信いたします。

最後に、移住者子弟一般技術研修制度に深い理解を示され、研修員を温かくご指導くださいました関係機関の皆様に改めて感謝の意を表する次第です。

1992年11月

国際協力事業団
移住事業部長

目 次

まえがき

研修総括報告書(18カ月コース)	研 修 科 目	頁
1. 生駒浩樹エクトル・ファビアン	野菜の施設栽培及び(アルゼンティ ンのこの遺伝育種	(ラ・プラタ) …… 1
2. 伊藤ホルヘ・エドゥアルド	果樹園芸	(ッ ヴィエドゥマ) …… 4
3. 中村博子クリスティーナ	調理	(ッ ガルアペー) …… 7
4. 村上ロサリア	果樹(主に柑橘)	(ッ グレウ) …… 9
5. 玉城キヨミ・ガブリエラ	経理(簿記)	(ボリヴィア 村ワ第2移住地) …… 12
6. 鳥屋エレナ智美	花卉	(ッ サマイパータ) …… 14
7. 比嘉明美	経理	(ッ 村ワ第1移住地) …… 15
8. 額川真由美セレスチ	コンピュータ	(ブラジル ベレーン) …… 17
9. 貞弘和彦	音響機器の回路設計	(ッ マナオス) …… 19
10. 宮崎カルロス征人	コンピュータ	(ッ パロ・オリゾフ) …… 22
11. 井関セルジオ	畜産	(ッ クビチュック) …… 25
12. 植西あゆみシルビア	臨床検査	(ッ クリチバ) …… 26
13. 佐藤美紀	老人看護	(ッ サン・パウロ) …… 29
14. 檀ファビオ和宣	花卉園芸	(ッ 砂・ヌ・カ・ヒ) …… 31
15. 前田弘美イダリーナ	臨床検査	(ッ サン・パウロ) …… 33
16. 指宿正義	果実, 野菜	(ッ ピエダーデ) …… 37
17. 佐藤清美	果樹, 花卉	(ッ イビウナ) …… 39
18. 鈴木セルジョ耕一	蔬菜(施設園芸)	(ッ ビリチ・バ・ミソ) …… 42
19. 土田光代ジュスチーナ	洋蘭栽培	(ッ スザノ) …… 43
20. 山川 豊	蔬菜	(ッ ピンドラマ) …… 45
21. 矢島 緑	コンピュータ	(ドミニ共和国 サント・ドミンゴ) …… 46
22. 加藤絵里	7パル技術(服飾)	(メキシコ メキシコ) …… 49
23. 池内 溜	機械修理	(パラグアイ アルト・パラナ) …… 51
24. 星野真一ファビオ	家電修理	(ッ ラ・コルメナ) …… 53
25. 大橋スサナ・エステル	住宅プレハブ技術	(ベ ルー リマ) …… 55
26. 古賀ケティ・シャーレイ	樹木無性繁殖	(ッ リマ) …… 58
27. 山内一男	デジタル電子技術	(ッ リマ) …… 60
28. 治田美理	宣伝広告	(ウルグアイ モンテヴィデオ) …… 61

研修総括報告書 (24カ月コース)	研 修 科 目	頁
29. 本多美也子	幼児教育 (ボリヴィア サン・ファン)	63
30. 工藤公仁エドウィン	コンピュータ (ブラジル イガラッベラス)	64
31. 吉野澄恵	幼児教育 (" マナオス)	67
32. 松永末子	幼児教育 (パラグアイ ラ・パス)	69
33. 武藤瑞穂	幼児教育 (" アスンシオン)	72
第20回移住者子弟一般研修員一覧表 (前期)		75
" (後期)		79

(注) 本研修レポートの文章は、文法上・つづりの誤り及び明らかに事実と相違があると思われる箇所のみ当方で訂正したが、他はすべて研修員の原文のままである。



平成3年3月28日
(伊豆にて)

指宿正義

土田光代ジュースチーナ

多田カルロス(物故)

檀フアビオ

和宣

伊藤ホルヘ

エドゥアルド

植西あゆみ

シルビア

佐藤美紀

中村博子

クリス

松永末子

矢島 緑

池内 溜

加藤絵里

武藤瑞穂

比嘉明美

海外移住センター

奥野正篤

藤川真由美セレスチ

山内一男

吉野澄恵

古賀ケティ

シアーレイ

村上ロザリア

屋野真一

鳥屋エレナ智美

生駒浩樹

大橋スサナ

エステル

玉城キヨミ

ガブリエラ

井関セルジオ

宮崎カルロス征人

工藤公仁

エドウィン

鈴木セルジオ耕一

山川 豊

佐藤清美



研修総括報告書（18カ月コース）

生 駒 浩 樹

(アルゼンティン ラ・プラタ)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 前期：京都大学農学部附属農場（大阪府高槻市）

平成2年5月～3年3月

(2) 後期：近畿大学農学部遺伝育種研究室（奈良県奈良市中町）

平成3年4月～3年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

平成2年4月2日～3年9月27日

3. 研修科目

(1) 野菜の施設栽培，露地栽培

(2) きのこの遺伝育種

4. 当初研修計画（テーマ，研修内容等）

主に，野菜の施設栽培を学びたいと考えていました。種類はトマト，ナス，ピーマン，キュウリです。研修は可能な限りで，講義へ出て，もちろん実習は毎日参加して，農家，試験場等の見学も兼ねて貰いたかったです。

可能であれば，農家で短期実習もやってみたいとのことでした。

後期のきのこについての研修は，期間が短いので，帰国後，きのこの栽培をできる程，学ぶことができれば充分満足だと思っていました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

センターでの日本語の講習は，良い講習だと思います。私の次の研修先へ移ってから，全然言葉に不自由しないくらいになりました。

お茶，生花，日本の歌の講習は，将来には使わないと思いますけれど，日本的な風習の思い出となりました。

センターでは，他の研修生達と，友達になれて，この一年間“寂しい”と思った日は，無かったです。

京都大学の附属農場には，5月の半ば頃に移りました。私は，そ菜花卉部で研修することになりました。この頃，そ菜部は，大変忙しくしていました。

私はまず始めに，皆さんの名前を覚えることと習慣を身に付けることが，一番だと思い，研修にはげみました。

5～6月。始めての実習は，アスパラガスの収穫でした。他に，スイカの交配，ナスの管理，トマトの管理，収穫，出荷をしました。

7月。トマトの栽培，収穫，出荷，ナス，スイカ，アスパラガスの栽培管理。他に，メロン，ブロッコリーの播種と育苗をしました。

8月。メロンの定植とブロッコリーの育苗をしました。長野県野辺山にある信州大学高冷地実験センターで、一週間信州大学の農学部2回生の皆さんと高冷地野菜の収穫について実習しました。

9月。メロンの交配に玉つり、ナスの収穫、ブロッコリー定植、ハクサイ、タマネギ、レタスの播種方法と管理。他に、トマト（秋～冬）の実験を見ました。

10月。イチゴの苗作りから定植方法。ブロッコリー、タマネギ（苗）、ハクサイの中耕と追肥をしました。

11月。イチゴの施設栽培を続けました。他に、タマネギの定植、ブロッコリー、レタス、サトイモの収穫に出荷をしました。静岡大学農学部を見学しました。

12月。イチゴ栽培の続きとアスパラガスの促成栽培（伏せ込み）をしました。

1991年1月。イチゴ、ブロッコリー、ハクサイ、伏せ込みアスパラガスの収穫に出荷。露地アスパラガスの管理。トマトの播種、育苗に接ぎ木方法を習いました。

2月。露地アスパラガスの管理（6年物）ひき続き、トマトの育苗を行いました。宮崎県と愛知県の施設野菜を見学しました。宮崎県では主に、キュウリとピーマンを見ました。他にも、イチゴ、トマトと干し大根を見ました。愛知県では、野菜で、ミニトマトのロックウール栽培、大玉系トマト、スリークオーター周年メロンを見ました。花卉類では、バラ、キクと観葉植物を見ました。

3月。イチゴの管理、収穫に出荷の続き、トマトの定植に管理。スイカの接ぎ木とその管理方法を習いました。

近畿大学農学部遺伝育種研究室へは、3月の合同研修会后、4月8日から行き始めました。私が行き始めた頃は、もう4回生の皆さんは卒業の為の実験を始めていました。学生は、親切に説明してくれました。教えてくれたり、案内してくれたり、迷うことなく後期の研修が始まりました。

4月。育種学、細胞遺伝学の講義に出始めました。他には、3年生と4年生の演習にも参加と、研究室の方ではきのこの実験方法について学び始めました。特に、基礎知識でした。

5月。同上。シイタケの菌糸が何とか手に入りました。

6月。きのこの遺伝育種の基礎と交配についての仕組みを習いました。

私の実験は、タイ国のシイタケと日本産のシイタケを掛け合わせることです。

7月。育種学、細胞遺伝学の講義は終了しましたが、演習だけは最後まで参加する予定です。シイタケの交配を続けました。ヒラタケとマッシュルームを顕微鏡で勉強しました。

8月。交配の続きをしました。実際にきのこの菌糸をおがくずで培地に植え付けて見ることにしました。他に、奈良県吉野市のきのこ農家を三軒見学しました。主にシイタケのほだ木栽培を見ました。他にホンシメジを見ました。

9月。きのこはうまく出てくれました。きのこの菌糸の纏めをしました。

ほかには、挨拶まわりをしたり、種を探しにいたり、頼まれた苗を取りに行ったりで、とても忙しく研修を終了しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私が希望した研修は、上記に述べたようでした。けれども、実際に比べてみますと辛く当たることも有りましたが、思ったよりいろいろなことを勉強できました。私は出国する前に、前研修生に（先輩）色々話を聞いたり、国際協力事業団が出版している“ゆうかり”を読んだりして参考にしてきましたが、驚くこともいっぱいでした、とても有利な研修を送りました。

前期研修は、毎日実地作業が多かったです。実際に技官の皆さん、先生方と同様に働き、施設栽培だけではなく、露地栽培もやりました。けれども、ちょっと残念だったのは、キュウリとピーマンの栽培が出来なかったことです。代わりに宮崎県と愛知県の野菜栽培を見せてもらい、勉強しました。

後期の研修は、全く前期研修とは違って、毎日研究室の中で自分が実験することでした。私は、始めからきのこの栽培をやろうと考えていましたが、先生と話して、きのこの遺伝育種（基礎）からやったらどうかと、私は賛成しました。けれども、最後には、実際に栽培を見ることが一番です。

7. 本邦での生活状況

初めての生活は横浜での海外移住センターで、とてもものんびりと楽な生活を過ごしました。日本語、日本人の習慣と文化はとても有効な勉強になりました。

移住センターでは、同研修生とか、別コースの皆さんと友達になるとか、電車とか、あれこれと色々な情報を身に付けるとかでした。

一ヶ月半後、私達は研修先へ向かいました。それで、アパートへ行った時はびっくり、移住センターでの生活が恋しい程でした。始めは、慣れるのにちょっと苦労したが、その内に慣れて、あっと言う間に一年が過ぎてしまいました。

そのアパートでは何時でも自炊でした。お風呂は、毎日と言う程銭湯でして、日本に居るのだな、と言う気持ちでした。

後期の研修は奈良県に決まりましたので、そ菜部の先生に手伝ってもらい引越しました。こちらの暮らしも余り変わり無く、同じ四畳半のアパートでちょっと狭いと言う感じでしたが、このアパートの管理は、前より良かったです。

私は、その4月頃から風邪がみで薬を飲んでいましたが、治らないので近くの病院に行き、診察した結果は風邪から細菌が腎臓に伝わる病気でした。その後、二週間程近畿大学医学部附属病院へ入院し、腎生検をして医者がもう良いと言うまで、二ヶ月近く与えられた薬を飲んでいました。それから月に、一〜二回診察に通い続けました。お蔭様でちょっと痩せたけど、もうすっかりと治り、前と同じ暮らしをできるようになりました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

自分の国の事情を何となく多く知っておくと良い。

日本語はもちろん、専門用語も具体的に身に付けておくこと。

研修は勉強ばかりではなく、実際に見て体験すれば良いと思う。

自分の為、うわさ話は避けといた方が良い。

日本では、友達をつくる、時間が有れば旅行もしたら良いでしょう。

9. 帰国後の計画

南米、アルゼンティンには国際協力事業団の農業園芸試験場がありまして、そこでは花卉果樹とあり、今まではそれに付いて試験的なことをしたり、I. N. T. A. ア国の農業試験場と肩を組んで研究とか、情報交換等をしたり、日系農業者に指導を行うとかをしています。

今年からは野菜という科目が増えて、花卉果樹と同じようなことをしますので、日本から派遣される先生方と同様に働く予定です。

10. 所感

私が、この一年半やって来たことを考えてみますと、とても良くて恵まれた研修を送ったと思います。

野菜栽培、きのか栽培どちらにしても私が学んだ技術は日本的です。これは勿論なことであって、私はその技術をどうやって生かしていけるかを考えながら、僕の国に合った所を取り入れ、役立たせて行きたいと思っています。

最後に、京都大学農学部附属農場の先生方、技官の皆さん、近畿大学農学部遺伝育種研究室の先生方、4回生の皆さん、国際協力事業団移住事業部国内事業課の皆さん、関西支部の皆さん
日本での研修は一生忘れません。ほんとうに心から感謝しています。

“有り難うございました”

伊藤 ホルヘエドゥアルド

(アルゼンティン ヴィエドマ)



1. 研修機関および研修期間

京都大学農学部附属農場 1990年5月～1991年9月

2. 受入期間(来日～離日)

1990年4月～1991年9月

3. 研修科目

果樹園芸(落葉果樹の栽培、育種、培養)

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

研修の目的は日本の落葉樹の年間栽培管理、技術の修得です。アルゼンチンではJICA農業

試験場につとめていました。そこでは日本式の栽培方法をアルゼンチンの果樹園に応用するしけんをしていますので、日本の細かい栽培技術をみにつける必要がありました。とくに見たかったのはナシ、リンゴ、サクランボとクリの選定、ブドウやナシのたな栽培、ハウス栽培、高級果実の作り方です。果樹の組織培養や育種も学べればと思っていました。日本の文化、習慣、風習も知りたいと思っていました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

1990年4月2日につきました。それから1か月半横浜の海外移住センターで日本の文化の研修を受けました。

5月17日からは京都大学の農場で研修を受けるようになりました。

農場に来た時はほとんどの果樹の開花が終わっていました。農場の栽培管理は技官の人といっしょに作業をして、おぼえました。

研修の内容は以下の通りです。

春：リンゴ、ナシの人口受粉

ブドウの誘引、摘粒、防鳥網張り。

ナシ、リンゴ、モモの誘引、摘果、袋かけ。

田植え。

夏：モモと早生のナシの収穫、夏季剪定。

カキの摘果、夏季剪定。

ブドウの収穫。

秋：ナシ、リンゴ、カキ、ワイン用のブドウの収穫。

カキの脱波。

冬：ほとんどの果樹の剪定、誘引、施肥。

ナシ、カキ、リンゴの培養。

もちつき。

そのほか、薬剤散布

学生実習の時はいっしょに授業を受けました。

実験室ではカキ、ナシ、ブドウの組織培養を習いました。ワイン用の菌の繁殖もしました。また助手と果樹の本を読んで日本語と果樹栽培の勉強をしました。

そのほかに滋賀県、広島県、奈良県、山形県、静岡県、愛媛県の農業（果樹）試験場、広島県、静岡県、岩手県の農林水産省果樹試験場、その近くの農家などへ見学に行きました（とても良い勉強になりました）。北海道大学では園芸学会にも参加しました。

夏に野辺山の信州大学の農場で学生といっしょに1週間の実習をしました。

京都大学本部では、栽培学、そ菜園芸学、熱帯農学、果樹園芸学の講義を受けました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修の目的以上にたくさんのことを勉強が出来ました。

日本の技術は非常に進んで発達しているの、勉強できるかなと心配していましたが時間がたったら理解出来るようになりました。

日本語と農業の勉強不足で理解が遅くなりました。

読み書きがあんまり出来ませんでしたので、じっさいに仕事をやってみて覚えました。

7. 本邦での生活状況

私が勉強したかったことよりも多くのことを学びました。

また、日本人の習慣とか考え方、心を理解出来るようになりました。

日本の生活で難しかったのはアパートの物をそろえること（コンロ、ふとん、れいぞうこ、コタツ、ナベ）。たたみのくらしは楽しかったです。さんねんなのはあんまり部屋で、勉強が出来なかったことです。こたつはひくすぎて足がしびれておちつきがなかった。わがままを少し言いますと、アパートのことをもう少しめんどろを見てほしかたっです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言の要望事項

今後の研修生で農業きぼうで来るひとは、同じ場所でさいてい一年間、研修をうけたほうが非常に良い勉強になります。その後で研修先をかわってもいいと思います。

日本では一人ぐらしになりますから一番気をつけてほしいのは食事です。バランスのとれた食事をすること。

アパートに閉じこもらないこと。さびしかったら、だれかに電話をかけて、きもちを表すこと。生まれ育った国の言葉が研修先で話せないでストレスがたまります。日本語は良く勉強しておくこと。日常会話を出来るくらい。

研修先でもっともたいせつなのは研修生の立場をわすれないこと。

9. 帰国後の計画

農業かんけいの仕事をつづけたいと思っています。（果樹園を作りたいと思っています。日本で学んだ技術はアルゼンチンの農家のためにやくにたてたいと思います。）

10. 所感

日本に来て本当にうれしいです。なぜなら子供の時からの夢だったからです。

いろんな日本の風習を見ることができました。そして学んだ果樹の栽培技術はすばらしかった。また、日本へ勉強にきたいと思っています。日本の生活になれるのに時間がかかり、勉強に集中できるようになった時は研修期間がほとんど終わっていました。

農場での経験は自分の人生に非常にプラスになりました。このようなりっぱな研修を受けさせていただいて JICA の皆様方には本当にかんしゃしています。

日本での経験が無駄にならないようにアルゼンチンに帰ってもがんばりたいと思っています。また学んだ技術を特に日系人のために役立たせたいと思います。

			霜降り・盛り付け
鮓	： 細巻き（カッパ）	細巻き（カッパ）	鉄火巻き
	笹切り（のしくずし）	巴巻き	いか握り
		笹切り（もみじ）	笹切り（鶴）
洋 食	： サンドイッチ	シャトーむき	オニオンのアッシュ
		ポークカツ	鶏さばき方
中 華	： チャーハン	フロンシエ	チンチアオチイスウ

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

今までどれだけできていたかを切り捨てどの研修についても同じ用に1の基礎からはじめました。長年経験を持つ私には随分と時間が無駄、もったいないと思うところがありました。実技の他に学科もありまして実技は3時間、学科は4時間でした。学科では栄養学と食品衛生学が重要だと思った私には興味を持つにつれて楽しく勉強できました。実技では目的であった和食の他、洋食、中華、鮓、韓国、洋菓子等があり望んでいた以上のことも勉強できたとおもいます。しかし、一年過ぎ去るのが早く各分野において広く学んだが、ただ広く浅くという感じて不満足を感じています。学校では年三回、国家試験並みの学科、実技テストが行われました。合格した時点で調理師免許を取得できますが、免許を取得したにしても板前には最低三年以上の実務経験を持つことと法律で定められていると聞きました。

この他、会席のマナー、会席料理のサービスの仕方、頂き方、テーブルマナーや立食パーティーも行われました。スポーツでは、ボウリング大会、スケート教室、運動会、（芋煮会）もありました。二、三学期にかけて各種のコンクールもあり最後に卒業製作料理コンクールと言って各自一品出品する行事もありました。

後半の研修についてはバス、地下鉄を利用して通った五ツ橋（藤）和食店では学校へ入学の時よりも不安がいっぱいだった。ここでは、昼はランチタイムと夜は予約を受持ち、これは懐石料理になりますが各コースについて、前菜、酢の物、焼き物、揚げ物、煮物、お造り、蒸し物等がありまして、お造り、前菜、酢の物の盛り付けを手伝いました。厨房ではやはり季節の変わりには大変厳しい管理作業を行われていました。冬は少々時間早目に盛り付けをできましたが夏では第一に恐ろしい食中毒予防のために、特に生物は来客寸前に行われました。研修生だからと言って親切にしてくれましたが何も言い付けられなかったことがありましたが、何でも自分から進んでやってみました。失敗も逆にありましたが皆がとても優しく、くじけることなく頑張ることができました。

7. 本邦での生活状況

この一年半日本人との付き合いや習慣などに特に困ったことはありませんでしたが初体験の雪の冷たさより人間の冷たさがやや感じられた面もありました。

四季がとてもきれいだった。夏はなんとかたえられたけど南米の夏がいいとつくづく思いました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

当然のこと第一に日本語をしっかりと勉強してくること。そのほうが時間の無駄なく一日も早く目的の研修に取り付くことが出来ますし、楽しく勉強をできると同時に日本語も覚えている以上の専門用語も向上していくと思います。

9. 帰国後の計画

この一年半日本に来て以来国の状況、情報等全然ありませんでしたので一応計画はたてて居ますが、確実ではありません。まだまだ見習い不足ですし数多くやりこなすことが大切ですので身についたものだけでもいろいろ工夫して時間が掛かっても生かしたいです。

10. 所感

国際協力事業団の皆様方大変お忙しい中御苦勞様でした。私が日本で楽しく研修出来たことは皆様方の心暖かい御指導と、励ましがあったからです。一年半すぎるのはあつと言う間でしたが、生まれて初めて他国で幸せな体験ができました。

本当にこころより感謝致します。有り難うございました。MUCHISIMAS GRACIAS !!

村上 ロサリア

(アルゼンティン グレウ)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 前期 近畿大学農学部附属農場。和歌山県有田郡湯浅
- (2) 後期 同上

2. 受入期間(来日日～離日日)

平成2年4月2日～3年9月27日

3. 研修科目

果樹(主に柑橘)

土壌管理、施肥、病虫害、防除、剪定、かん水、収穫、貯蔵、増殖等、ミカン栽培に関する事項及びミカンのハウス栽培。

その他、マンゴ、メロン、水稻等の栽培について。

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

私が日本での研修として果樹を選んだ理由は、アルゼンティンの園芸試験場で果樹に関する事項を学び、少し果樹栽培に興味を持つようになったからです。

そこで日本のような先進国の果樹栽培の技術や、現状を知りたく、そして日本語や日本の社会勉強等をしたくなった。

さらにもう一つの目的は、両親の祖国が経済大国日本と言うことなので、どんな国で、どんな文化を持っているかを自分の目で見たかったので応募しました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

研修は有田ミカンの産地にある近畿大学附属農場で一年半行われました。この農場の栽培品目は大部分が温州ミカンで、その栽培作業の多くは機械で行われていました。そこで私の場合もこの作業体系の中に組み込まれて、その中で柑橘栽培に必要な知識や技術を身に付けることができました。例えば、剪定は主枝、亜主枝、側枝、結果母枝等に区別し、一つ一つの特徴を生かす為に行います。

又、一年生苗木の栽培時には、20~30cmの所で切り返します。かなり生育の良い物でも強く切り返すことが必要です。それは、切らないと弱い枝が多く出て、主枝が思うように発生しないからです。3年系苗木では、主枝を3本ないし4本仕立てて、その中から第一、第二、亜主枝等を仕立てます。この為に主枝の先の芽かきをします。4~5年生までにこの作業を完成するようにすることが大切です。

又、移植するには、細根の量によっても違ってきます。通常の根と吸水と蒸散とのバランスが出来るように切れば良いわけです。成木の場合、品質の良い多くの果実を収穫するのが目的となるので、日当たりの良い葉を多く付けるのが大切です。

豊作年は、強い剪定をしても大丈夫です。明年は、花芽が少なく、芽が多く出るので亜主枝等を取り変えます。それから、母枝が少なければ不作なので軽く、日当たりを考えてします。

枝の切り口は、できるだけ小さくし、その後、カルスができやすくします。

着果すると病虫害の防除が必要となります。

ミカンの摘果は、7~8月に二回、又は三回に分けて行われます。余りに取りすぎると果実が大きくなりすぎます。

年間、広く二回に別けて施肥をします。

春先は、全施肥料の内30%、秋には70%程をブロードキャスターを使って施肥します。

近年品種改良の目的で、胚培養による方法が実施されていますが、この農場でも行われていて、一種の中の胚数を数えたり、胚培養の実際を実習しました。

ミカンの収穫適期は、11~12月です。収穫したミカンは2S、S、M、L、2Lの5段階に選果機で選別し、ブラッシングをし、その後、パッキングして出荷します。

ミカンの畑の土壌の管理では、PHが測定され5.5~6.0の範囲にあるかを調べ、その他、N、P、K成分に付いても分析します。これらは、施肥や土壌管理の基本データとして利用されるわけです。

又、水稻、ウメ、キウイ、温室メロン、マンゴのハウス栽培等の色々な知識を学びました。尚、近畿大学の学生との交流もあって楽しい一時を過ごすこともできました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

思っていた以上に色々な事を身につけ、学ぶことが出来たと感じます。又それぞれの作物を栽培する作業がどんなに大変であるかという事が身にしみました。

7. 本邦での生活状況

私は、一年半大学のセミナーハウスにいたので、アパートに住んでいる人達と比べると不便な点は、全然ありませんでした。

又着いた時は、近大農学部4年生の女の子が卒業研究でセミナーハウスに居られたので、その人と友達になり、又アルゼンチンで知り合いの我藤先生もいました。その他の付属農場の先生方には、想像以上の暖かさで迎えていただき、心から感謝しております。

週に一回は、先生、友達とテニスをやったり、お盆には、親類の所に行ったり、お正月には、家族のような気持ちで、日本式のお正月を楽しく過ごしました。

又日本は、経済の安定した国なので、欲しい物が何でも手に入れる事ができるとも便利な国でした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本へ来る前に、日本語の読み書きと話す事が十分出来たらとてもプラスになると思います。

第一印象がとても大事なので気をつけるようにと思います。

色々な県へ旅行すると、日本の文化や名物を知ることが出来、朗らかな日本生活に慣れます。

もし大学だったら外泊する時は、何日～何日まで、又連絡先と電話を出来れば外泊届けとして出したらよいと思います。

ストレスなどみんな持っているものだと思って気にしないで頑張ってください。

9. 帰国後の抱負を含めて

アルゼンチンの農業は、女性にはとてもきついで、将来農業に従事するかどうかはわからないけれど、なにかの形で今回日本で得た知識や経験をいかすようなしごとをしたいと思っています。今という時間を大切に、一生懸命頑張ろうと思います。

10. 所感

最後になりましたが、この研修で色々お世話になった国際協力事業団の方々、近畿大学付属農場の先生方には色々お世話になりました。友人の皆様とは、心に残る良い思い出がたくさん出来たことを心からとても感謝しています。

長い間大変お世話になりました。本当に有り難うございました。

玉城キヨミ・ガブリエラ

(ボリヴィア オキナワ第2移住地)



1. 研修機関および研修期間

- (1) 前期 大育情報ビジネス専門学校 2年4月～3年3月
- (2) 後期 沖縄花王販売株式会社 3年4月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 経理(簿記)

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

母国でもある日本国は, 世界的にも発展した国なので一度は日本に来るのが夢でした。日本で技術を学びボリヴィア国のために少しでもやくだてたいと思い経理の研修に来ました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

1. 簿記の基本

資産, 負債, 資本, 収益, 費用, 勘定, 仕訳, 転記, 仕訳帳, 試算表, 総勘定元帳, 決算諸取引の処理(仕訳, 諸帳簿, 伝票)

現金, 預金, 現金出納帳, 当座預金出納帳, 小口現金出納帳, 有価証券, 商品売買, 仕訳帳, 売上帳, 商品有高帳, 売掛金, 買掛金, 売掛金元帳, 買掛金元帳, 手形, 受取手形記入帳, 支払手形記入帳, 固定試算, 収益の費用, 伝票

2. 工業簿記

製造活動に関する原価計算, 工業簿記の基礎, 原価の費目別計算, 原価の部門別計算および製品別計算, 製品の販売と決算および標準原価計算

3. 企業会計の目的

- ・企業の一定期間の経営成績を明らかにすること
- ・企業の一定時点の財政状態を明らかにすること

4. 情報処理

流れ図の作成, トレースの基礎, COBOLのプログラミング, コンピュータの機能と構成

5. 所得税法

利子所得, 配当所得, 不動産所得, 事業所得, 土地建物の譲渡所得, 給与所得, 一次所得, 雑所得, 山林所得, 退職所得

6. その他, 秘書, 文書事務, ペン字, ワープロ, 電卓, そろばん

成 果

- 1. 簿記能力検定合格証書 1級
- 2. 公共簿記能力検定科目合格証書 1"
- 3. 会計能力検定科目合格証書 1"

4. 税務会計能力検定合格証書	2級
5. 電卓計算能力検定合格証書	2〃
6. 秘書能力検定合格証書	3〃
7. 文書処理能力検定合格証書	3〃
8. ペン字書写技能検定合格証書	3〃
9. 珠算能力検定合格証書	5〃

以上のことを大育ビジネス専門学校情報経理本科2年課程で学びました。

後期の6ヶ月は、沖縄花王販売株式会社で実施研修をさせていただきました。

会社の方では、伝票発行や、出荷確認や、ワープロ、コンピュータなども教えてもらいました。

社内旅行で九州の工場も見学に行きました。私にとって本当にいい研修になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本で日本人といっしょに専門学校に通い同じ検定などを受けるのが心配でした。でもこの1年間を振り返ってみて自分が順調に専門学校を卒業することができてとても嬉しいです。

残りの半年間は社会人として会社の方で研修ができ、良かったと思っています。色々な人に出会い友達も沢山でき、日本語も前より上手になりました。

7. 本邦での生活状況

日本に着いた時には、横浜の移住センターに行き、そこで約40日間皆と一緒に日本語の講習会を受けました。その時は、センターでの生活は何でも揃っていてとても便利でした。でも研修先に行ってから専門学校の寮に入りちょっと小さな部屋でしたので不便を感じました。

昨年9月からアパートに移りましたので部屋も大きくて良かったです。1年も日本に住んでみればこの生活にも慣れたような感じがします。日本のスーパーはなんでも売っているので、食べる面では全然困りません。お肉とか野菜とかやっぱり南米に比べては高いですね。沖縄県では、冬はあまり寒くないですが夏はやっぱり暑いですね。クーラーなしではちょっと寝不足になると思います。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生で日本に来る皆さん、自分がやりたいことをはっきりさせ、どのような場所で研修をしたいかをはっきりさせたほうが良いと思います。

同じ研修生の中でもどうしてこの研修を選んだのかと日本に来てから悩む人もいますので、そのような事がないように日本に来る前に考えて下さい。

それからできるだけ日本語の読み書きをマスターしておくの良いと思います。

9. 帰国後の計画

今まで私が専門学校や会社で学んだことをポリヴィアに帰り少しでもやくだてたいと思っています。できれば、農業や、一般企業で働きたいと思っています。

10. 所感

この1年と6ヶ月間わたしにとってとても勉強になりました。楽しいこともかなしい事もありましたが、自分一人で生きることができ良かったと思っています。

国際協力事業団の皆さん、沖縄支部の皆さん、大育情報ビジネス専門学校の先生方、そして沖縄花王販売株式会社の皆さん、長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。

鳥屋エレナ 智美

(ボリヴィア サマイパーク)



1. 研修機関および研修期間

- (1) 岡山大学農学部作物発育調節学研究室 2年4月5日～3年3月26日
- (2) 東京都渋谷区“第一園芸株式会社” 3年4月6日～3年9月7日

2. 受入期間（来日日～離日日）

2年4月2日～3年9月27日

3. 研修科目 “花卉園芸”

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

組織培養の基礎を身につけ、無菌苗を国内で販売すること、フラワーアレンジメント。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

I. 栽培の実験・実習

1. 古い株からの挿し芽繁殖によるスターチスシヌアークの促成栽培
2. スプレーギクの直接短日定植法栽培
3. スカシユリの繁殖
4. スカシユリの促成栽培
5. グロリオサの繁殖と栽培
6. ワックスフラワー (Chamaelucium uncinatum Schauer) の繁殖と栽培
7. ソリッドアスターの栽培
8. シュクコンカスミソウの冬切り栽培

II. 切り花後の取り扱い

1. カーネーションの切り花の長期貯蔵
2. カスミソウその他の花の染色

III. 組織培養

1. ジャガイモの無病種芋生産
2. サトウキビの無病苗育成
3. カスミソウの無病苗育成

4. ランの増殖
5. シンビジウムの組織培養
6. ファレノプシスの組織培養
6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期の一年間は岡山大学で研修しました。計画としては、組織培養とフラワーアレンジメントを研修することでしたが、それ以外に栽培の方も研修することが出来、本当に良かったと思っています。

7. 本邦での生活状況

一年半の日本での生活は私にとって良かったと思います。でも横浜で皆さんと日本語の講習を受けることが出来なかった為、読み書きの不自由が出て来て、初めの2～3か月間位は不安がありました。小西先生の御協力である程度日本語の読み書きが出来るようになり、後半は授業はスムーズに進める事が出来ました。

大学では学生の皆さん達がとても親切にしてくださり、また沢山の友達が出来楽しく研修させていただきました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本での研修は素晴らしいものですが、もう少し研修旅行を加えて欲しいと思います。また、これから研修生として来られる皆さん達には出来るだけ日本語をマスターした来た方はより一層素晴らしい研修を得る事が出来ると思います。

9. 帰国後の計画

今後は日本で学んだ事を生かしてボリヴィア社会の為に役立つように努力させていただきたいと思っています。

10. 所感

日本に来て研修だけでなく人間関係また習慣の違いなどで戸惑うことが沢山ありましたが、皆様の御協力により無事一年半の研修を終了させて頂きましたことを心より感謝お礼申し上げます。事業団の皆様、指導に当たって下さった先生方、みのる植物工学研究室の皆様、また第一園芸の皆様、誠に々に有り難うございました。

比 嘉 明 美

(ボリヴィア オキナワ第1移住地)



1. 研修機関および研修期間

- (1) 沖縄県大育情報ビジネス専門学校 平成2年5月～3年3月
- (2) 神奈川県農協教育センター 平成3年4月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

平成2年4月～3年9月

3. 研修科目 経理

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

最初の研修計画は、1年間専門学校で経理に関する基礎的なものを学び、残りの半年は、会社で実習をすることでした。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

私は1年と6ヵ月の研修期間の間、前期の1年間は、沖縄県大育情報ビジネス専門学校で経理に関する基礎的なもの（簿記、情報処理、ワープロ、文書実務、電卓、そろばんなど）を学びました。学校では、担当の先生が気をつかって、商業高校を卒業した生徒の隣に座らせてもらい、授業中先生が説明している所がわからないと教えてくれました。

私は、移住センターで5月の中旬まで日本語講習を受けたため、同級生の皆さんよりも1ヵ月半遅れたので簿記は、授業別に2週間補講を受けました。また、検定試験の時は、学校に残ってみんなと一緒に勉強をしたのであまり困りませんでした。

情報処理では、コンピュータの基礎やCOBOLのプログラムを学びました。ワープロ、電卓、そろばんは同級生の皆さんよりももっと長い時間練習をしました。

1年間で取得した検定試験は下記の通りです。

・商業簿記	1級	・ワープロ	3級
・工業簿記	〃	・硬筆	〃
・所得税法	2級	・秘書	〃
・電卓	〃	・そろばん	4級
・情報処理	3級		

後期の半年間は、会社実習として神奈川県農協教育センターで研修をしました。ここでは、農協簿記のしくみ、コンピュータ処理、伝票の扱いかたなどを教わりました。

農協教育センターなので農協に勤めている方々がいろんな研修を受けに来ます。私は、その中の新採用研修会という初めて就職された職員のためにある研修会を参加しました。

また、神奈川県内にある牧場、養鶏、蚕なども見学させてもらいました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

自分が計画していたよりも、とてもよい研修ができたのでよかったです。

7. 本邦での生活状況

私は、前期の研修は、沖縄県で受けましたので気候に関しては、自分が住んでいる所と似ていたのでとても過ごしやすかったです。

日本に来て、自分の研修を別にしてプラスになったのは、こちらの文化にふれることができたことです。

生花や茶道、奈良、京都ではお寺、東京にある浅草や皇居などを見学することができました。

また、厚木の清川村では、日本のもちつきや、日本的なつくりをした家を見せてもらいました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の経験からいいますと、経理を基礎から学びたい場合は、専門学校に通うのがいいと思います。

また、専門学校では、簿記の科目別に経理に必要とするいろんなもの（ワープロ、電卓、情報処理など）もありますので自分にとってとても役だつと思います。

会社などに研修に行くといろいろ説明はしてくれますが、実際に自分でやることができないので基礎が判らないと難しいです。

9. 帰国後の計画

帰国後は、日本で研修してきたものを移住地の中で仕事の上に役だてていきたいと思っています。

10. 所感

一年半とてもよい研修ができたことを国際協力事業団の皆様にご心から感謝しています。後期の研修は、無理を言ってすみませんでした。

それから私を受け入れてくれた沖縄県の大育情報ビジネス専門学校、神奈川県農協教育センターや農協組合中央会の皆様には、いろいろとお世話になりました。おかげさまでいろんな事が学べました。

穎川真由美 セレスチ

(ブラジル ベレン)



1. 研修機関および研修期間

(1) 長崎コンピュータ専門学校 90年4月～91年2月

(2) 同上 91年4月～91年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

90年4月～91年9月

3. 研修科目 プログラム科、システム経営科

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

ブラジルも21世紀はコンピュータの時代になって来るでしょう。それには現在私たちが技術を積んで行く必要があります。二系二世として、両国語を話せる、私たちがこれからベレンまたコロニアのために役立たせたいと考えました。日本の進んだコンピュータ技術を大いに学んで、文化、歴史も同時に味わいたいと思いました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

ーコンピュータの基礎（オペレーション）

ーハードウェア基礎知識

- ソフトウェア基礎知識
- COBOL言語
- フローチャート
- 情通
- SE (システム設計)
- BASIC
- オンラインシステム設計
- データ通信システム
- データベース
- 技術文書
- 簿記
- 一般常識

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

前期は1年間専門学校で学び、その技術を後期会社に入って、現場でどのように応用されているか見ながら日本の社会を肌で感じ、体験したいと思ってました。しかし実際は後期をそのまま専門学校で過ごしました。本当は会社に入って日本の社会人と共に学びたかったのですが、仕事の内容が簡単なものばかりになってしまうので、あまりプラスにならないと思い、実現できませんでしたが、今は学校に残って勉強出来て満足しています。

7. 本邦での生活状況

父母の祖国での生活、夢にも見ていました。四季のはっきりした国で暑い寒いの違いが見当も付きませんでした。ただ、一度も体験したことのない冬を迎えるのが不安でしたが、おかげさまで始めてあった親戚から冬物を揃えてもらって楽しく過ごしました。

日本の生活にも慣れて、日本語で自分の気持ちをスムーズに表現出来て、長崎での寮生活や友人との接触が楽しくなりました。日本は物が豊富でなんでもあり、自動化されて、何一つ不自由無く生活できてとてもすばらしい国だと思い感激しました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

18ヶ月の研修は学校あるいは会社でも半端で短いのが非常に残念です。できれば研修期間を2年にしてほしいです。

同じJICA研修生でも日本語12ヶ月コースと子弟研修生の差が色々な面であるので調整してもらいたいです。

9. 帰国後の計画

コンピュータ関係の職業に着きたいと思います。日本で学んだ技術を社会人として、会社でどれだけ自分自身に役立たせられるか、また完全に身に着かなかったことをじょじょに進めて行きたいです。なるべくコンピュータ会社にしたいのですが、すくなくとも日本の情報や出来事が分

かり、これからの交流の場としていける所に入りたいと思っています。

10. 所感

日本で無事研修を終えられたことは、多くの人たちのご支援、ご協力によると思います。良い研修が出来、また標準語も覚えることができました。大変色々な感動の体験が、刺激が多過ぎて自分自身ののくらい成長したのか分かりません。しかし、これからも広い道に向かうように頑張りたいと思います。

国際協力事業団のみなさん、九州支部のみなさんに心から感謝しております。日本の事それからみなさんの事も忘れることはありません。

貞 弘 和 彦

(ブラジル マナオス)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 海外移住センター 90年4月2日～90年5月15日
- (2) 三洋電機オーディオ事業部 90年5月16日～91年9月20日

2. 受入期間(来日日～離日日)

1990年4月2日～1991年9月27日

3. 研修科目 音響機器の回路設計

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

- a) ラジカセ回路設計方法
- b) HiFi回路設計方法
- c) コンパクトディスクに関して
 - ・原理
 - ・調整
 - ・測定法、等
- d) その他最新の無線技術について。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

90年5月15日から三洋電機オーディオ(事)で回路設計研修を行いました。音響機器の設計は以下の分野に大きく分かれています。

- a) 商品企画
- b) デザイン
- c) 外観機構設計
- d) メカニズム設計
 - ・カセットテープメカ設計

- ・ CDメカ設計
- e) AMPLIFIER 回路設計
- f) TUNER(ラジオ) 回路設計
- g) CD回路設計
- h) マイコンソフト開発設計

設計は幅広く分かれています。私の研修は、AMPLIFIER 回路設計がメインでした。アンプ設計も大きく分けますと

- a) カセットテープ部回路設計
- c) 電源回路設計
- d) パワーアンプ部回路設計
- d) 音質設計 (スピーカ)

アンプグループでの設計研修は、以下の事について学びました。

- a) 配線図をかくこと
(機能と性能を考慮して)
- c) 電子部品の知識を広めること
- b) 測定方法の習得
- d) 仕事の進めかた
- e) CADを使っての回路設計

設計技術は、細かい所に気を付けないと出来上がる商品は、場合によって使い物になりますので大変責任の重い仕事だと感じました。設計の実習は、私にとって大変重要な研修でした。本などを読んでなかなか理解できないこと、本には載っていないことを実習で学ぶことができました。

技術的にはある程度力を付けることができました。帰国してから実際に設計を行うのは少し遠い将来にはなるかと思いますが、ブラジルでも設計スタートを考えていく自信を少し持つことができたと思います。

技術研修がメインでしたが一年半の日本での生活は日本語の勉強にも大変重要だったと思っています。漢字が分からなくて読めなかった新聞、本、等は現在50~70%読めるようになりました。漢字も1000~1200字読めるようになったと思います。日本人々とのふれあい、日本の文化、日本の歴史、等大変勉強になった場面も多かったと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

最初の段階から研修スケジュールをだてて頂いて、技術的に設計の幅広い所まで教えて頂きました。全体の基礎知識はある程度理解できたと思います。又専門的にアンプ設計も経験深い担当者に指導して頂いてある程度回路設計を習得できたと思います。研修を受ける為に沢山のの方々にお世話になりました。非常に温かい気持ちで受け入れて下さって、大変有り難く思っています。まだまだ勉強をすることが沢山あります。日本では、勉強できる環境が揃っていてもっともっと学べるところがありました。少し私の努力が足りなかったと思います。

7. 本邦での生活状況

研修が始まってから最後まで三洋電機の寮に入りました。生活に必要な設備 (冷暖房, 洗濯機, お風呂, 等), 又食堂もありまして、生活面では殆ど心配する必要はありませんでした。また人

間関係では大阪の人と会社の皆さんは大変温かい性格の方ばかりで気楽に話げできました。ブラジル人に負けない明るさをもって仕事に一生懸命頑張っておられる日本の皆様から見習うことが沢山ありました。日本の会社の皆さんは大変素直だと感じましたので、私ももっと素直になる必要があると思いました。

日本の冬には非常に堪えました、アマゾンで生まれ育った私にとって初めての冬を乗り越えられるか不安で一杯でしたが、その寒さを乗り越えるために色々工夫があることが分かりました。日本のお茶、こたつ、暖めて飲むお酒、等。

研修というかたちであまりにも気楽に過ごした為か分かりませんが、日本では体重が8キロばかり増えました。日本国内の旅行（長野県、山梨県、石川県、熊本県、愛媛県、等）を楽しむことができましたので大変満足をしています。

来日してから移動は一人ではできなかったのですが、日本人々の親切に教えて頂いて、一年半もたちますとすっかりなれて迷うことはありません。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修を始める段階からはっきりとスケジュールを組んで下さったのが研修を進める為に重要だと思っています。内容についても私の希望にあった研修に恵まれたことも良かったことだと思いますが、色々状況を見ながら、少し慣れてきた所でもっとやりたい分野などが分かるようになって、研修スケジュールを少し変えて頂いたりしたことがありました。研修生それぞれ違う分野で研修を受けていますが、場合によって研修先でスケジュールをくむことは難しいと思いますが最初の段階から、最後まで研修テーマをできるだけ細かく決めていったほうが良いのではないかと思います。また研修先を見付ける為にJICAの皆様も大変だと思いますがもっと研修先とのコミュニケーションを取って頂いたらと思います。私の研修についてはまったく問題はありませんでした。

9. 帰国後の計画

帰国後の計画は、またブラジルの三洋電機（アマゾン三洋）で仕事をする予定になっています。ブラジルの政治と経済が安定していない状況ですが、企業が成り立っていく方法はあると思いますので、技術面で頑張っていきたいと思っています。

設計を実際にやることは、少し遠い将来になりますが、ブラジルでも設計ができることを希望しています。

10. 所感

日本の企業は常に将来の商品を考えて、益々技術の新しい分野に進んでいます。私が受けた研修は、オーディオの分野ですが、この分野は日本国内では非常に競争の激しい状況です。それでも日本は現在アナログからデジタルの技術に移り変わってきています。又これからの時代は光の時代にも進んでいます。CDは日本の市場に高率で普及していますが、これも光の技術が使われています。

日本の最新技術を勉強できることは、子供からの夢を実現させて下さったJICAの皆様には感謝いたします。この研修の費用を個人が出してうけることは大変莫大なお金になります。ブラジルへ帰っても母国のために仕事をしていくのですが、両親が日本人であるためだけでなく、私の気持ちも半分日本人だと思っています。ブラジル人には日本の良い所を伝えて行きたい、又今後も国際人として何か役立つ人になれば幸だと思います。私の研修をいろいろとささえて下さった人々に感謝いたします。

宮崎カルロス征人

(ブラジル ペロ・オリゾンテ)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 熊本工業専門学校 1990年5月～1991年3月

(2) ナカヤ株式会社 1991年4月～1991年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

1990年4月～1991年9月

3. 研修科目 コンピュータ(ソフト)

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

- ・コンピュータ技術関連では世界的にも先進国と言われる日本のシステム開発技術を身に付け、それを今から発展し始めるブラジルのコンピュータ業界で生かす事。
- ・日本の文化、風習、それと日本語の理解を深め、それを日本との繋がりを失おうとしているブラジルの日系人社会に再びもって行く事。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

前期は熊本県熊本市の熊本工業専門学校(情報工学科)で、日本人学生と共に、一年間勉強させて頂きました。

講義の内容としては、技術と、それに関連する色々な科目を習得しました。

・技術:

- | | | |
|------------|----------------|----------------|
| 1. COBOL言語 | 4. 情報処理演習 | 7. ハードウェアの基本知識 |
| 2. アセンブラ言語 | 5. 情報処理科学 | 8. フローチャートの書き方 |
| 3. BASIC言語 | 6. ソフトウェアの基本知識 | (ボックスフロー) |

・その他:

- | | |
|---------|-------|
| 1. 簿記 | 3. 英語 |
| 2. 経営科学 | 4. 体育 |

・実習:

実習として、1990年8月に一週間ほど、熊本の西日本通信株式会社(システム西通)を見学

させて頂きまして、一本のプログラムを作らせてもらいました。そのプログラムは、ラジオの電波送信塔よりの信号が障害物によって遮られない様に、電波送信塔の最適の高さをもとめるプログラムで、使用した言語はBASIC言語でした。

後期は、研修生として引き取ってくださったナカヤ株式会社の親会社である、日本システムウェア株式会社の川崎事業所で研修をしました。

最初の2ヵ月は、1991年度の新入社員と共に、新入社員講習会を受け、残り4ヵ月は川崎事業所の第一システム事業部システム2課の仕事を手伝いながら研修しました。

・新入社員講習会に付いて：

1991/4/2～1991/5/2 ⇒ 渋谷の日本システムウェア株式会社で行われました。講義の内容は、下記の通りでした。

1. アセンブラ言語の説明・演習問題（5問）
2. COBOL言語の説明・演習問題（5問）
3. システム開発のシミュレーション

1991/5/7～1991/6/7 ⇒ 日本システムウェア株式会社の川崎事業所で行われました。講義の内容は、下記の通りでした。

1. PCL (Program Check List)の書き方
2. モジュール分割
3. HCPチャートの書き方
4. マシン操作
5. バグ票の書き方
6. 機能設計書の書き方
7. C言語の説明と演習問題（家計簿管理システム）

・システム2課内での研修に付いて：

1991/6/10～1991/9/13 ⇒ 日本システムウェア株式会社のシステム2課は主にNTT関係の仕事をやっています。僕はNTTの料金明細システムの一部を管理している料金明細と言うグループに入らせて頂き、そこで色々と勉強させてもらいました。時には、実際作業も手伝わせて頂いたのですが、システムがあまりにも巨大なため、全体をよく理解できなかったのが残念でした。研修の内容は、下記のとおりでした。

1. JCLエディター（JOB CONTROL LANGUAGE EDITOR）の使い方
2. NTTの専用言語（SYSL言語）の勉強
3. NTTの拡大10-2オンライン検索業務の臨時指数検索処理のフローチャートの作成
4. NTTの拡大10-2オンライン検索業務の希望区分変更処理のシステム改造の手伝い

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修を始めて間もなく、僕の研修計画を100%果たすのはとても無理だと分かりました。何故

かと言えば、僕の目標はあまりにも幅広く、それを一年半で実現する事は不可能だと分かったからです。それが分かった時に、自分の研修内容を限って、幾つかの科目に集中して研修を進めました。今この一年半を振り返ってみると、実際の研修内容と自分の当初の研修計画はかなり異なっていますが、これでよかったと思っています。

7. 本邦での生活状況

日本に着いて最初の一ヵ月半は海外移住センターで過ごしました。その期間はずっと、一緒に来た南米の研修生達と共に生活したので、日本に来ている感じが全然なくて、とても心強かったです。

この期間が終わり、僕は熊本へ立ちました。最初の頃は緊張、緊張の毎日でした。でも学校の皆様はとても親切にして下さり、初めての一人暮らしに少しづつ慣れました。

最後の6ヵ月間は再び研修先が変わり、今度は川崎に出て来ました。生活状況も変わり、大変な思いをしました。言葉の面では特に困った事はありませんでしたが、たまには習慣の違いで悩まされました。でもこんな思いをするのも一つの勉強になったと思います。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- ・研修生達の中で、一年間は学校及び大学で勉強して、残りの6ヵ月は会社などで研修をするという形の研修は毎年多いいみたいですけど、JICAにその最後の6ヵ月の研修機関を前もって探しておいて欲しいと思います。
- ・東京みたいに物価が高い所で研修をしている研修生達には、生活費をもう少し上げて欲しいと思います。
- ・研修計画をしっかりと立ててから日本に来て欲しいと思います。中途半端な研修計画を立てて来ても、絶対充実した研修ができないからです。

9. 帰国後の計画

帰国後はまず休学して来た経営管理学の勉強を続けたいと思います。でも場合によって、自分が希望している仕事が今住んで居る町でみつからない場合、引っ越す事もあると思います。

出来る事なら、自分の希望する仕事をやりながら、これからの自分の道を開いて行きたいと思います。これが僕の夢です。

10. 所感

幼い頃からの夢がかなって、僕は1990年の4月に国際協力事業団の第20回移住者子弟技術研修生の一員として来日し、日本で研修を受けることができました。

この一年半の間、充実した勉強をさせて頂き、また色々な体験をして、人間として成長できたことを心から感謝してます。

最後に、色々な形でお世話になり、迷惑をかけ、又、理解して頂いた国際協力事業団の皆様、熊本県工業専門学校及びナカヤ株式会社、日本システムウェア株式会社の皆様、素晴らしい一年半の研修、誠にありがとうございました。

井 関 セ ル ジ オ
(ブラジル クビチェック)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 愛媛県畜産試験場 2年4月～3年3月
- (2) 大分県玖珠郡玖珠町 梶原寛之氏宅 3年4月～3年6月
- (3) 大分県経済連肉牛肥育実験牧場 3年7月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 畜産

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

肉牛の繁殖, 育成, 人口受精, 牛乳の加工, その他

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

肉牛の繁殖……………今の所放牧なので人口受精はまだしていない

飼料作り……………物価が高いのでなかなか難しい

豚の飼料管理……………まだ飼育していないが将来するつもり

乳牛の飼料管理……………少しでも多く乳がとれる様検討中, 年中ほとんど高温なので, 日本の様に

沢山出すのは難しい

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

希望していたことを習ったが, 実習に追われなかなか計画通りには出来なかった。

乳牛加工は, 全然出来なかったのが残念です。

7. 本邦での生活状況

始めの一年間は両親の出身地だったが, 事業団から親戚の所に入ることを許されなかったので生活費がものすごくかかり苦勞した。

大分県の梶原さん宅では家族同様にして頂き本当に日本人の生活状況がよく解りよかったです。

最後の実験牧場では人手不足でものすごく忙しかった。

皆さんとてもよくしていただいたので助かりました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

1. 日本語を出来るだけ勉強して行くこと。

2. ブラジルの地理を勉強して行くこと。自分が住んでいる近くのことは解るが, 他の所を質問された場合知らないと恥ずかしいから。

9. 帰国後の計画

父が肉牛を飼育しているので, 日本で研修したことを出来るだけ応用していきたい。放牧ばかりでなく狭い所で多く飼育して行く様研究してみたいと思っています。それと移住地(コロ

ニア)の人達の手伝いが少しでも出来るようになりたいと思っています。

10. 所感

何も解らない僕が大変足手まといになりながらも色々と親切に指導して頂いた人達に心から感謝しています。今後も出来るだけ長くこの制度を続けて下さい。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



植西あゆみシルビア

(ブラジル クリチバ)

1. 研修機関 札幌医科大学附属病院 検査部
前期：同上
後期：同上
2. 研修期間 平成2年5月～平成3年9月
3. 研修職種 臨床検査

4. 当初の研修計画

- 血液検査の進め方
- 精度管理
- 白血病分類検査
- 凝固因子検査
- 血液検査技術

5. 研修概要

1. 血液検査

- 全血球カウンター機械の精度管理、結果の判定と確認
- ヘモグロビンの多くの測り方を試し、それぞれの特徴、精度を調べました
- 血液細胞の通常染色方法、各染色の特徴と共通点
- 末梢血液像と骨髓像の細胞鑑別と白血病分類 (FAB分類)
- 特殊染色類、目的、原理と方法：白血病細胞判定の補助手段の一つ
- 白血病細胞と類似している他の病原性細胞との鑑別、病気の診断
- 各白血病細胞の特徴と鑑別
- 白血病細胞、特殊染色細胞、特徴の有る細胞の写真を写し、スライドにして、いつでも比較して、勉強できる様に保存
- 同一白血病患者の治療前後の標本を観察して、治療による細胞変化を調べた
- * 白血球モノクローナル抗体検査
- 検査方法、細胞表面抗体マーカー検査

- CD分類, 白血球細胞鑑別, 細胞成熟過程

*形質細胞分類, 細胞免疫の鑑別検査

*血液検査の進め方, 精度管理, 検査技術

*凝固検査

-内因系と外因系の凝固過程

-凝固スクリーニング検査

-凝固因子の活性化と検査

-PIVKA-IIの問題点と検査方法

-凝固線溶検査

-可溶性フィブリンモノマー複合体検査

-ロケット免疫電気泳動法: Von Willebrand病と血友病の判定

-血小板機能検査: 凝集能, 粘着能, トロンボエラストグラフ検査

2. 輸血検査

-血液型検査: ABO/Rh式, 唾液式, 亜型検査

-抗体スクリーニング: 生食法, アルブミン法, プロメリン法, 間接クームス法

-交差試験

-直接クームス法

-不規則抗体の同定

-抗体価の測定

-抗体の解離検査

-IgM抗体の処理

-IgG抗体のサブクラス検査

-血小板抗体検査

-ポリアグルチネーション検査

*北海道赤十字血液センター (見学一部実習)

-献血者検査

-成分製剤の分離調剤

-HLA検査

-検査試薬の製造

3. 血清検査: 検査の進め方, ルーチン検査

4. 細菌検査: 検査の進め方, 培養, 準培養, 最近の同定, 感受性

5. 一般検査: 検査の進め方

*研修見学:

-北里大学病院

- 旭川大学病院
- 北海道赤十字血液センター
- 千歳市血漿分画センター

*学会、研修会：

- 金沢市第40回日本臨床衛生検査学会-平成3年4月
- 札幌市日本臨床血液研修会-平成2年7月/平成3年7月
- 北海道臨床衛生検査学会-平成3年9月
- その他多くの市内勉強会

6. 当初の計画と実際の研修内容を比較して

上記に記入したとおり、私の希望と、実際に札幌大で木村先生、佐々木先生に指導してもらいながら学んだのと比較すれば、最初の希望は、ほんのかけらでした。

札幌大の皆様、事業団の皆様にもいつも温かく受け入れてもらい、親切になんでも教えてもらい、学会や勉強会、見学等させてもらい、誠に感謝しております。

血液検査について、こんなにいろいろと勉強出来、新技術を学び、『やはり日本に研修に来て良かった』と言う満足な気持ち『これからも勉強を続けなければならない』と言う明らかな考え方を、現在感じています。

7. 合同研修会について

合同研修会は私達にとって一番の楽しみです。みんなと出会い、気楽にお話したり、笑ったり、相談に乗ってのもらったり、聞いてあげたり、歌ったり、遊んだり、スポーツ等を行いながら、本当にその時間を楽しみ、気持ちがすっきりします。又、事業団の人達も一緒に参加して、私達のお話を聞いてくれて、検討してくれますので、研修生と担当者のふれあい、研修生同士のふれあいと言う二つの大きい目的が有ると感じ、私達にとってとても大切な事だと思えます。

私も含めて皆いろいろな意見が有り、わがままも有ります。私の願いは『皆がなるべく一緒に居られて気楽に楽しめる所』『せめて4～5日一緒に過ごせる期間』です。

8. 本邦での生活状況

札幌に来た直後は、アパートに何も無く、みんなからいろいろもらったり、中古屋で買ったり、燃えないごみの日に探しに行き、必要な物を拾ったりして家具を少しずつそろえました。最初はそのまま遊びみたいでした。でも、その様な経験もとても楽しく良い思い出に成りました。

アパートの場所もとても気に入ったので、気楽に過ごしました。近辺に、市場、地下鉄駅、居酒屋、郵便局等有り、便利な所で、生活には全然困りませんでした。優雅な生活では有りません。けれども、私は楽しく毎日を迎えました。

一時、郵便物をずっと取られていたのに気が付き、鍵を付けてからも郵便ボックスの戸が曲

がっており、盗まれていました。どこの誰だか、なぜ私のだけが取られていたのかは今だに判りません。余り続くので、郵便局の監察局、事業団、管理人、警察に行き、郵便局の職員が頑丈なボックスを作ってくれて解決しました。それまでは少し不安でした。それに、手紙も何枚も取られたのが残念でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

滞在中は特に何も無し、私は充分にいろいろとしてもらっていると思っていますから自分からの意見は無いです。

私達がそれぞれ各国へ帰ってから、こちらで一年半頑張って勉強したことを生かす為に指導してもらえたら最高だと思います。日本に居る間ずっとお世話になっていながら帰国してからも、と言うのは失礼で甘え過ぎかもしれません。でも、せっかく日本にまで勉強に来て、技術を持って帰り、それを個人で生かすのはとても難しいので、事業団の指導があればもっとスムーズに進のでは無いかと感じます。例えば、Employment Agency とのコンタクト等。

10. 所感

日本へ白血病検査、凝固検査を学びにやって来て、多くの先生方に教えてもらい、想像以上勉強出来、沢山習い、その他、友達も沢山出来、国内の観光勉強もしました。特に住んで居る札幌はとても気楽で、近辺に自然が沢山あり、都会で心地良い所なので、すごく楽しみました。又、北海道では四季がはっきりとしていますので、それぞれの季節を味わいました。春は一面に咲く花、夏は海水浴、秋は紅葉、冬はスキーに雪像作り、なにもかも最高でした。

日本はとても治安が良いので、安心して楽しみました。

11. 帰国後の計画

帰国後、附属病院の血液検査室で日本で学んだ白血病検査、骨髄移植検査等を主に実行したいと思っています。

佐藤美紀

(ブラジル サン・パウロ)



1. 研修機関および研修期間

(1) 東北厚生年金病院 平成2年5月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

平成2年4月～3年9月

3. 研修科目 老人看護

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

私はブラジルで看護婦の資格を取りましたが、カリキュラムの中では、老人に対しての勉強はほとんどふくまれてありませんでした。実際に病院で実習をして見ると、多くの入院者がお

年寄りであることに気が付き、もう少し具体的に老人看護の知識を深めたいと思うようになりました。このようなことから、高齢化社会と言われている日本では、老人に対する看護がどのように行われているかを勉強したいと思うようになりました。そこで老人看護に関する行政、福祉、医療など全体的に研修を受けることを計画しました。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

1. 東北厚生年金病院

脳神経内科、リウマチ科、リハビリ科の病棟では患者が医師の治療と共に理学療法、作業療法、言語療法のリハビリテーションを受けられるようになっております。そのおかげで患者のもっている機能を低下させないで、動作を拡大することができています。

内科病棟では、糖尿病を持つ患者を中心にした看護を実践しました。糖尿病とはどんな病気であるのか、そして、コントロールが十分に出来ない場合はどのような合併症が起こるのかを患者と一緒に勉強をしました。

日本で糖尿病患者が治療して受けている食事療法、運動療法、薬物療法を学ぶことも出来ました。

神経精神科病棟では、老人性痴呆、精神分裂病などにたいする日常生活のケア、コミュニケーションを通して精神科疾患特有のケア、対応について体験しました。

2. 病院外での研修

- 1) 葉山ディサービスセンター長生園
- 2) 養護老人ホーム仙台長生園
- 3) 特別養護老人ホーム仙台楽生園
- 4) 宮城野保健所
- 5) 宮城県三本木町の総健康課

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は日本へ来る前には、どのようなことに直面するか全然知りませんでした。ただ、自分の成すべき事をしっかり果たすこと、研修を通して看護の知識を深めることが一番の目的でした。日本へ来て、看護の状況を少しずつ理解しながら計画を立てて来ました。私の研修では、想像以上に良い成果を得たと思っております。

7. 本邦での生活状況

私は日本へ来て初めて一人暮らしをしました。最初の2ヵ月ぐらいは、日常生活のための買物、交通機関の利用などに戸惑いましたが、日々がたち、友達もできたので解決していきました。私は病院の寮に住んでいましたので研修のためにはとても便利でした。

日本の治安の良さは、平和を感じさせてくれました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言および要望事項

私達研修員にとって、自分が勉強して来た国が日本でないため、日本人と同じ成果をだすこ

とは、とてもたいへんなことです。なっとく出来る研修をするためには、どのような目的で、そして何について学びたいのかをはっきり把握して日本へ来るとよいと思います。日本語を多く知っておく事も大事です。

9. 帰国後の計画

私は帰国後、働きながら大学へ戻って勉強を続けるつもりです。日本で学んだ老人看護の事は、日本の社会に当てはまるように仕組みられていますが、すべてそのまま、ブラジルの状況に当てはまることはありませんので、自分の経験を生かしながら、よりよい看護を目指していきたいと思っています。

10. 所感

日本に来て勉強をすることは私の小さい頃からの夢でした。日本で学んだすべてのことを土台にし、勉強を続けていきたいと思っております。

最後になりましたが、この一年半、研修機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、東北厚生年金病院の方々へ心からお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

檀ファビオ和宣

(ブラジル モジ・ダス・クルーゼス)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 福岡県農業総合試験場 2年5月～3年3月
- (2) 3年4月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 花卉園芸(洋ラン)

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

私は、シンビジウムと言う洋ランの鉢物と切花栽培の勉強に来ました。特にシンビジウムの鉢は世界でも日本でしか育種されてません。昔ブラジルでは、まだシンビジウムが知られてませんでした。けど最近日本からどんどん輸入されブームとなってきました。そのブームを生かすため日本で色々な技術を習い、持って帰りたいと思ってきました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

研修内容は花卉園芸洋ランのシンビジウムです。前期は福岡県農業総合試験場園芸研究所でお世話になりました。そこでは、組織培養とシンビジウムの栽培実験をやらせてもらいました。組織培養の方は、始めてであり最初から先生に習いました。やってみれば基本は簡単であり、培地のホルモンを変えながら色々実験をやってみました。栽培の方は、少し知ってましたので好きなようにやらせてもらいました。鉢替えや、鉢の大きさ、用土の実験をやってみました。

組織培養の方は、結果という物は、出ませんでした。採芽方法を覚えましたが、栽培の方は、シンビジウムにとって一年間は、少ないですが色々ためになりました。実験方法とか覚えましたが、ブラジルへ帰っても色々実験をしながらシンビジウムを育てていきたいと思っています。後期は、農家に移り草場農園と言う所で研修をさせていただきました。ここでは、植物と触れ合いながら栽培管理をやって来ました。最初は、半年間で覚えられるか心配でしたが今は、自分に自信が出て来て安心です。

草場さんもいい人であり色々教えてくれ信用を得てこれからもずっと付き合っていきたいと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画は、シンビジウムの栽培管理と組織培養を学ぶことでしたが、他の洋ランのことも見ることができ良かったです。

7. 本邦での生活状況

日本は、初めての国であり色々不安が有りましたが横浜での日本語講習で皆さんと友達になり研修先に移ってから色々お互いに助け合いながら最初の一步を通り抜けることができました。研修先でも友達が沢山行き良かったです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本での研修は、みなめずらしいものばかりでなんでも勉強になることですが、この一年半を生かすためには、なるべくはっきりした目的で日本へ来た方がいいと思います。

9. 帰国後の計画

うちでは、シンビジウムを栽培し始めてまもなくです。これから帰国し、日本で学んだ物を生かし、生産者の皆さんに指導し、ブラジル社会の発展のために頑張りたいと思います。

10. 所感

日本での一年半の研修は長くて短い期間でした。学ぶことで精一杯でしたが、研修だけでなく人間関係または文化の違いでまよったことがありましたが研修先の皆さんや事業団の皆さんのおかげで無事研修を終了することができました。この期間中大変お世話になりました福岡県農業総合試験場、草場農園そしてJICAの皆さん一年半色々ご指導ありがとうございました。

前田弘美イダリーナ

(ブラジル サン・パウロ)



1. 研修機関 北里大学病院
前期：同上
後期：同上
2. 研修期間 平成2年5月～平成3年9月
3. 研修科目 臨床検査

4. 当初の研修計画

- ー輸血センターにおいて、血液型、交差試験、成分採血、不規則性抗体スクリーニングと同定
- ー免疫血清検査室において、CRP定量検査、補体価の測定、免疫電機泳動
- ーウイルス検査室において、補体結合反応テスト、ELISA法、HI法、各種ウイルス抗体の測定とウイルス分離同定

5. 研修概要

a. 検査室の研修

*輸血センター

ABO四季血液型（表試験，裏試験），Rh試験，Du試験
血液型因子検査（Rh四季，CcEe，Lewis式，MN式，P式）
交差試験（血清法，プロメリン法，間接クームス法，広範囲適合試験）
不規則性抗スクリーニング試験（三法継続法，プロメリン二段法）
抗I，抗H，抗IH等の抗体検査
不規則性抗体同定
成分採血（新採血，血小板）
直接クームス試験
HBs抗原検査（RPHA法，LPIAーラテックス凝集反応）
ATLA抗原検査（PA法ーゼラチン粒子凝集反応）
HIV抗体検査（PA法ーゼラチン粒子凝集反応）
RPRカードテスト
抗体吸着解離試験
輸血検査精度管理のためのself-check

初めは専門用語があまりわからなくてけっこう苦勞しました。日本語及び専門用語を聞き慣れるまで時間かかりました。けれどもわからないことをいつも親切に検査技師のみなさんに教えてもらいました。

*免疫血清検査室

CRP定量（LPIA）

IgE, フェリチン, CEA, AFP定量 (LPIA)

補体50%溶血価

クリオグロブリン定性, 同定

IC-免疫複合体の定量

免疫電気泳動

・目的と原理

・検査の実際

— 検体の流しかた

— 写真の写し, 現像し, 焼き付け

— 焼き付けした写真の判読 (IgG, IgM, IgA, albumin, transferrin, kappa, lambda, Bence Jones蛋白質)

検査室の1年間の報告書を見ながらめずらしい症例の泳動の読み方を勉強しました。

* ウィルス検査室

補体結合試験 (CF)

Influenza A, Influenza B, RS, Adeno, 麻疹, 単純ヘルペス, 帯状ヘルペス,
Cytomegalo, Rota, Coxsackie B-1, Polio-1, M. Pneumonia, オウム病, Mumps
JEV, R. T.

血球凝集阻止試験 (HI)

麻疹, Parainfluenza

ELISA法 (IgM, IgG)

Mumps, 麻疹, 単純ヘルペス, 帯状ヘルペス, Cytomegalo

ELISA法 (モノラート)

EBV

ゼラチン粒子凝集反応 (PA)

HTLV-I, M. Pneumoniae

Western Blot法

HTLV-I

ウィルス蛍光抗体

臨床材料から単純ヘルペス, 帯状ヘルペス, Cytomegaloの直接鏡検をした。

ウィルス分離

尿, 髄液, 血液を培養細胞に加えて培養しウィルスの同定

ラテックス凝集法

ロタウィルス, アデノウィルス

検査室でわがままを言って, 自分の検体でいろんな検査をさせてもらいました。各種ウィ

ルス感染症の病例についても学ぶことができ大変勉強になりました。

b. 学会、研修会

第40回日本臨床衛生検査学会－平成3年4月金沢市

第25回関東甲信越地区大学輸血研究会－平成2年9月千葉県

第7回Japan Immunology Seminar－平成2年10月東京都

輸血研究班研究会－HCV検査における最新の話－平成2年10月横浜市

その他：部内外の勉強会等

c. 研修見学

場所：札幌医科大学付属病院

期間：平成2年12月26日～27日

－輸血検査室

院内採血はほとんどしていなくて、必要なときは病棟で採血していた。当直技師はいないので先生方がクロスマッチをしていた。血小板はクロスマッチ無で出庫し、赤血球の場合は広範囲適合試験法で出庫していた。

－免疫血清検査室

免疫電気泳動は寒天でなく、免疫電気泳動ゲルフィルムに検体を流し、結果はグラフィックのように全部機械がしてくるので感心しました。そして写真もポラロイドカメラを使っているのですぐ判定出来るようになっています。とても便利だと思いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容と比較して

ブラジルでは血液センターでしか実習の経験がなかったので、北里大学でうまく研修できるかどうかと不安でした。

でも報告書を出すたびに「あ、又新しいことをいっぱい学んだな！」と思いました。やっぱり私が最初希望した計画と実際に教わったのと比べてみれば想像以上に良かったです。

この1年半の間検査についていろいろと指導してもらいとても勉強になりましたが「これからもまだ勉強しなければならない！」という気持ちです。

7. 本邦での生活状況

北里のドミトリーに移った直後には部屋がせまく感じ、週末はできるだけ外で過ごすようにしていました。

食堂のメニューが変わらないので苦労しました。そこで管理人に頼んで（ドミトリーで料理をするのは禁止です）自分でつくことにしました。最初は家具が何もなく皆からいろいろもらったり、粗大ゴミの日を探しにいたりして、まだぜんぜん使っていないコップがあってびっくりしました。「粗大ゴミにあるものは市のものだから拾うと警察につかまるわよ！」と友達に言われたことがあるけどそれが又めずらしく楽しいでした。

私が入った頃は休日の北里行きの最終バスが午後9時半だったので何回かそれに遅れてタクシ

一で帰ったことがあります。「せっかくの休みだから、友達ともう少し楽しく過ごしたいのに」と文句を言いながら帰ってきました。

今年の5月から北里のキャンパスに新しいマートが開店しました。そこには新鮮な野菜とか、お肉、果物がおいてあるのでとても助かりました。それまではバスで駅の近くまで買い物に行っていました。

病院のすぐ隣に郵便局、銀行があって、ドミトリーから検査室まで歩いて5分しかかからないのでとても便利でした。

日本に来て皆様に親切にしてもらってとてもよいとおもいました。でもどこまでめんどうをみていただいているのか最初は迷いました。ドミトリーの管理人は私達がいなくて部屋を開け異常がないかと確認するのです。プライバシーをやぶっているのではないかと思いました。でもそれが管理人の仕事だと思って気にしないようにしました。

今ではこの研修の生活に慣れてここから離れるのはちょっと寂しいです。

8. 今後の指定研修制度に対する提言及び要望事項

私はいろいろしてもらっていると思っていますけど、できれば「日本語の講習会」と同時に「専門用語講習会」を開くこと。そうすれば研修先へ行ってから困ることが少なくなるのではないかと思います。

帰国後、日本で学んだ技術を生かすためには個人ではなかなか難しいと思います。私達が頑張って勉強したものを実行するために事業団が職場の紹介などをしてくれるともっとなめらかに進むのではないかと思います。

9. 帰国後の計画

ブラジルへ帰って大学病院で職業を探し、北里で学んだ技術を実行したいと思います。

10. 所感

祖父母の国で研修ができて大変嬉しく思っています。ブラジルでは日本人と呼ばれていますけど日本では外国人と呼ばれています。「私達はいったい何だろう？」と思ったことがあります。今では両方の国のいいところを持っている日系人だとわかりました。

北里大学の皆様にいろいろと教えてもらい、研修以外のことでも相談にのってくれて心からあつくお礼を申し上げます。

最後になりましたけど私がこの研修に当たりいつも親切に指導してくれた事業団の皆様に心から感謝しております。

指 宿 正 義

(ブラジル ピエターデ)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 社団法人 国際農業者交流協会 2年4月～3年3月
- (2) ミヤザキバイオファーム(株) 3年4月～3年9月

2. 受入期間(来日～離日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 果実, 野菜

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

前回、宮崎県での研修期間が短かったため、目的としていたキウイフルーツの栽培技術については一年間のサイクルを勉強出来なかったのです。そのつづきとして、勉強できなかった技術を学ぶ計画でした。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

前期研修ではキウイフルーツ栽培や椎茸の菌床栽培などについて研修を受けさせていただきました。キウイフルーツ栽培については、最初は勉強になりましたけれども、後半には前学んだことの繰り返しが多かったのです。

I. キウイフルーツについて学んだ新技術

- 夏の剪定 ⇒6, 7, 8月の間に行なう。
- 環状剥皮 ⇒花が開く約15日前
- ホルモン処理⇒受粉後, 約20日間たってから行なう。
- 施肥 ⇒年に約3回します。
- 受粉 ⇒花が開いてすぐします。

II. 菌床椎茸栽培について

- 菌床の作り方 ⇒鋸屑5/コメヌカ1 水分63%
- 接種方法 ⇒無菌室で行なう
- 菌床の培養方法⇒湿度85%, 20°Cで3～4ヶ月
- 発生方法 ⇒袋から出し, 加水後13°～15°Cで15/20日間で収穫

後期研修では、目的としていたキノコの種菌の作り方や色々のキノコ栽培、ランなどの熱帯植物生長点培養、茸のウイルスフリー菌の作り方について研修を受けさせていただきました。

I. 種菌の作り方について

- 寒天培地の作り方⇒イモを栄養分として
- 体より分離方法 ⇒クリンベンチで行なう
- 寒天培地から鋸屑培地のうつし方
- 鋸屑培地の作り方⇒鋸屑と米ヌカを元にする

- 種菌の雑菌検査

II. 種菌の種類

- ヒラタケ, 本シメジ, 椎茸, マッシュルーム, タモギ茸, エノキ茸, キクラゲ, レイシ

III. キノコ生産について (主にヒラタケと本シメジ)

- 鋸屑培地の作り方⇒ヒラタケ⇒杉オガクズ4 / 栄養分1 - 水分63%

本シメジ⇒杉オガクズ2 / 栄養分1 - 水分65%

- 殺菌方法⇒高压釜で120°C/2h

- 接種方法⇒無菌室で行なう (10°C)

- 培養方法⇒ヒラタケ⇒18°C/85% (湿度) - CO₂は300ppm以下 - 期間は25~30日

本シメジ⇒23°C/85% - 期間は90~110日

IV. 工場管理について

- 各室の温度や湿度の調整

- 換気方法⇒CO₂を300ppmに保つため

V. ランについて

- 寒天培地の作り方⇒m s 培地など

- 培地や各道具の殺菌方法⇒121°C/15min

- メリクロンされる植物の殺菌方法⇒アンチホルミン3%をつかう

- 組織培養方法⇒クリンベンチで行なう

- 培養室管理方法⇒25°C~26°Cの温度で16時間光を与える

- 実生播種方法

VI. 茸のウイルスフリー苗の作り方

- 寒天培地の作り方⇒MS培地にホルモンを加える

- 生長点の採芽

- 茸菌の殺菌方法⇒アンチホルミン5%に5~10min つける

- 組織培養方法

- 培養室管理⇒25°C - 光が7000LUX/16h/日

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期研修では計画をたてていたほどの研修が出来なくて残念でした。せっかく日本に来ているのですから、長いようで短い18ヶ月を出来るだけむだの無い研修を受けられたら良かったと思いました。

キウイフルーツ以外の作物について、もっと勉強する時間は有りましたけれども、そのチャンスが少なかったのです。

後期の研修では計画以上のことを経験出来たので良かったです。キノコの種菌の作り方についての研修を計画していましたが、その他に、キノコ栽培や組織培養でランなどの苗作

り、苺のウイルスフリー苗の作り方などについて、想像もしていなかったことも色々勉強出来てとても良い研修でした。

7. 本邦での生活状況

前期では農家に住み込みで研修を受けて、後期ではアパートで一人暮らしの生活をしました。一人で生活する方が、気楽で良かったと思います。家族によると思いますけれども、一緒に住むとお互いに余計な気をつかってしまうのではないかと思います。自由も少ないと言う点もあります。でも、日本の家族と一緒に住むのも、良い経験だと思います。

8. 今後の指定研修制度に対する提言及び要望事項

僕が来たところと現在の受け入れ方が変わったので、良くなっていると思います。

研修生の希望については、6ヶ月おきに研修先を変えることが出来るオプションを与えて上げたら良いと思います。

9. 帰国後の計画

帰国後は、日本で学んだ技術を活かしたいと思います。ブラジルと日本は、色々な点（気候、土壌、など）が違うので、こっちで学んだすべての技術そのものを向かう活かすことはむずかしいと思います。

初めには、日本へ来る前にしていた仕事をつづけて、日本で学んだ、沢山の技術を実験しながら、ブラジルで活かせるように努力します。

10. 所感

今年の4月からJICAのプログラムに合わせて研修を受けさせていただくようになりました。初めは同じ20回生の皆さんやJICAの担当者の皆さんのことほとんど知らなかったので、何と無く不安と言う感じでした。現在、振り返ってみるととても良かったと思います。新しい友達が沢山出来て、みんなと仲良くなれて、想像以上の良い研修を受けることが出来ました。国際農業者交流協会の研修生の皆さんには御迷惑をかけて本当に申し訳ありません。

JICAの皆さんはじめ、受け入れ機関の皆さん、20/21回生の研修生の皆さんなど、何よりも友達である皆さん、色々とお世話になり、どうもありがとうございました。日本で出来た一生の良い思い出を心から感謝申し上げます。 MUITO OBRIGADO



佐藤 清美
(ブラジル イピナウ)

1. 研修機関及び研修期間 社団法人国際農業者交流協会
 - (1) 果樹 平成2年4月～平成2年9月
 - (2) 花 平成2年10月～平成3年9月
2. 受入期間(来日～離日) 平成2年4月～平成3年9月

3. 研修科目 果樹,そして,ぶどうと,キウイフルーツと花の勉強

4. 当初の研修計画(テーマ,研修内容等)

果樹(おもにもも栽培)の勉強

ー日本の農業は,面せきがあまりになくて,よく,しゅうにゅうを上げることができて,とてもふしぎだと思います。

ーそれでどのように経営してるか?

ーその中でどのような生活をおくっているか。

ーそれに色々としりたいことがあります。

ーどのようにいいものをつくることができるか。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

私は去年の4月に日本に来ました。4週間のこうしゅうを東京でうけて,そして次の週に農家へ行きました。

ちょうど雨がふって,天気がよかった日です。

◎最初に入った農家はおもにぶどうの農家でキウイフルーツも少し栽培していました。まだよくなれなくて,でも次の日から畑に行きました。ハウスの方へ向かって,ブドウの房作りから教えてもらいました。

・ハウスブドウでは→巨峰とピオネ

・露地で→巨峰,ピオネ,かいじ,こうしゅうとデラウェアを少しずつ作っているのです。

作業→ブドウの①房作り,②てきりゅう,③ふくろかけ,傘かけ

収穫と出荷まで,中には,草取りとか色々な手作業

キウイフルーツ→草取り,てきか,人口じゅふん→これが勉強になりました→花ふんの取り方とこなみたいのでふやして→きかいでじゅふんしました。

◎次の農家は花の栽培をしています。

土作りの手伝い,花の植えかえ,草取りと出荷

・シクラメン→植えかえ,肥料のやり方,水やり,しょうどく,はぐみ

出荷(ちゅうい→とちゅうでびょうきで,くさって,すてるのもあります)

・フリジャ→キュウコンの植えこみ(冷蔵庫に入れる),そしてあとでだして上を切って,後で植えかえをする,水やり,出荷

・パンジ→植えかえ,水やりと出荷

・マリゴールド→たねまき,植えかえ,水やり,出荷

・ピンカ→種まき,植えかえ,ピンチ,肥料,水やり

・ベリフラワ→かぶわけ,植えかえ,水やり,肥料と出荷

・なすとトマト→種まき,水やりと出荷

なすの接木苗→種まき,植えかえ,2しゅるい,ついで,水やり,出荷

＊ハウスの開け閉め

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

思っていたよりすごい。少しの面せきで収入を上げる、そしてすごくいいものを栽培（作って）しています。くだものは、あじがよくて、形もよくて色もよくて、りょうは1本の木にならずりょうとか、枝にならずりょう、全部まっています。そして、木にふたんがかからないように作っている。

実さいにいっしょに仕事をしておぼえるのもよかったと思います。だんだん少しずつわかってきて、いい勉強になりました。

花では、けっこうこまかい仕事をやります。病気のよぼうに鉢洗いをします（シクラメン）。前の年にすてた花の鉢を利用する時に、新しい鉢だとだいじょうぶです。そして、シクラメンだけじゃなく色々な花の栽培をしているのでとても楽しくて勉強になったと思います。

7. 本邦での生活状況

・最初の農家では、昼間は仕事をして夜はボスとおくさんと弓道の練習をしていました。少しはうてるようになりました。食べ物には問題ありませんでした。

そして農協の講習にもつれていってもらいました。

・次の農家では、またちがってとても楽しくやれると思いました。そうしたらちょうど10月からだったので秋の紅葉をみるのに山へつれていってもらいました。天気は雨だったけどとてもきれいだった（来年も見たいなあーと思いました）。でも9月に帰国するからもう1回は見られなくてざんねんでした。その後は冬が来てスキーにも行きました。

（休みの日）

・コーラスにも参加しました。

・山歩きをしました。

・仕事はふつうにやって、そして色々と教えてもらいました。（いつかためになると思う）皆いい人達でとても良かったです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

次に来る人達にも色々と思い出を作ってください。

－そして色々な人達とも話して、自分の意見も話せて、よい友達をつくってください。

－研修生は一人々がちがうので同じ農家でもちがうたいけんをしたいと思います。

－だからよく聞いて、見て、がんばってください。

－体にもびょうきしないように気をつけてください。

9. 帰国後の計画

しょう来は、自分の農場をもって果じゅであれ、花であれ色々がんばりたいと思います。今すぐはできないけどそのうちにできれば……。

そして体にけんこうでいい品物を作りたいと思います。

10. 所感

私は、二つの農家に世話になりました。

果じゅにしても、花にしても、農業のほかには人間かんけいと生活の方も見れたからとてもよかったです。

それと家庭によって子供の教育の仕方が少しずつちがっていて、とてもためになったと思います。

鈴木 セルジョ耕一

(ブラジル ビリチーバ・ミリン)



1. 研修機関及び研修期間 社団法人国際農業者交流協会
(1) 渡辺守男様(静岡県) '90年4月～'91年3月
(2) 中嶋光晴様(愛知県) '91年4月～'91年9月
2. 受入機関(来日日～離日日)
'90年4月～'91年9月
3. 研修科目 施設園芸

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

施設園芸

- ・主に果菜類
- ・栽培管理
- ・土壌管理
- ・有機栽培

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

○トマト管理作業

- ・苗造り、接ぎ木、移植、側枝かき、誘引、灌水、収穫、その他

○メロン管理作業

- ・苗造り、移植、灌水、収穫、その他

○キュウリ管理作業

- ・誘引、収穫、苗造り、接ぎ木、その他

○蔬菜栽培

○産地訪問(熊本県、八代市)

○種苗会社訪問(埼玉県(S I G, イワキ), 京都府(タキイ))

○その他

- ・ハウス修理

- ・ハウス増設
 - ・隔離ベッド造り
 - ・対台風防備
6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して
大体、希望していた事が勉強できて満足です。
7. 本邦での生活状況
ブラジルでも日本人並みの生活をしているので、特に困ったことはありませんでした。でも
気疲れはしました。
日本語ができて本当に良かったです。
日本の若い人達との交流もできました。
8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項
18ヶ月間で、先輩、または後輩との交流が少なかった事が非常に残念です。
一週間位、合同研修があっても良いと思います。
9. 帰国後の計画
日本で学んだ事を徐々に応用しながら、農業を続けていきたいです。
10. 所感
この一年半、私は本当にいろんな体験をさせていただきました。特に困った事はなく、農業
面でも生活面でも、大変多いことを学びました。
家庭、家庭での生活は違って、特に農家が変わった時は大変でした。
日本での体験、そして、日本でつくった友達をいつまでも大切にします。

土田光代 ジュスチーナ

(ブラジル スザノ)



1. 研修機関および研修期間 社団法人国際農業者交流協会
 - (1) 土屋修三様 (千葉県) 90年4月～91年3月
 - (2) 岡田紘平様 (愛知県) 91年4月～91年9月
2. 受入期間 (来日～離日)
1990年4月～1991年9月
3. 研修科目 洋蘭
4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)
日本の洋蘭栽培
日本の文化

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

最初の農家は洋蘭（シンビジューム、ミニカトレヤ）の育苗所で品種改良や育苗を一年間勉強しました。

次の農家は、愛知県で洋蘭（シンビジューム、オンシジューム）の勉強をし、植え替え、草取り、肥料遣り、芽かき、5月には、ビニールの張り替え、6月、8月は山上げ、苗の植え替え、荷造り（オンシジュームとシンビジューム）、フラスコから出したオンシジュームと苗を水苔でまいて植え、9月には山下げ。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

第一希望、洋蘭の実習ができ、それぞれの農家での洋蘭栽培の勉強ができとても良かったです。

7. 本邦での生活状況

日本で二ヶ所の農家で家族一緒として暮らす事ができ、とても良い農家に恵まれ、大変良い勉強になりました。

農家、実習以外に千葉県では、いけ花に行かせてもらって、豊田市では、ボランティアとしてポルトガル語の指導者として市内の小学校に行ったりもしました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

もっと先輩と後輩の交流があったら良いと思います。

9. 帰国後の計画

日本で学んだ事を少しずつ生かして良い花を作って、日本、アメリカ、ヨーロッパへ輸出したいと思っています。

10. 所感

二つの農家での実習がいき、それぞれの農家での色々ちがいが、いろいろな出来事があり、楽しい時もあり、辛いときもありましたが、私には、この一年半での生活は、とっても良い経験でした。

帰国後、洋蘭栽培を続け日本で学んだ事を生かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、国際協力事業団の方々、国際農業者交流協会の方々、研修先の受入れ農家の方、色々とお世話になりまして、どうも有り難うございました。

山 川 豊

(ブラジル ピンドラマ)



1. 研修機関及び研修期間 社団法人国際農業者交流協会
- (1) 前期 兼子保峰様 平成2年4月～平成3年3月
静岡県浜松市三幸町
- (2) 後期 安間悦郎様 平成3年4月～平成3年9月
静岡県磐田郡浅羽町太郎助

2. 受入期間 (来日日～離日日)

1990年4月～1991年9月

3. 研修科目 レタス、玉葱、ブロッコリ、パレイショ、メロン、バラ、水田

4. 当初の研修計画 (テーマ、研修内容等)

私の希望どおりに研修ができました。

- ・第一希望 野菜でありました。
- ・第二希望 花でありました。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

最初の農家は野菜を作っていました。

玉ねぎ、ばれいしょ、メロン、ブロッコリ、セロリ

- ・玉ねぎをこいだり、切ったり
- ・ばれいしょうの芽かきをしたり、次に土地よせ、それから掘ったり拾ったり収穫
- ・メロンを植える場所を作ったり、植えたり、芽をかいたり
- ・ブロッコリの種をまいたり、苗を植えたり
- ・セロリの種をまいたり、定植収穫、苗植えたり

最後の農家は花を技術しています (バラ)、ロックウール

- ・バラの花切り、せんべつ、芽かき、ピンチ、芽のせいりなど、せんてい
- ・バラの花のくびつり
- ・バラのロックウールを植える場所を作ったり
- ・パイプをつけたり
- ・ハポッチロールをひいたり、マットをひいたり、マットの植えにバラの苗を植えたり、ノズルをつけたり
- ・バラのおりまげ
- ・ハウスの修理、はりかえ、ネットはり
- ・稲植え
- ・コンバインで小麦をかりました

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して
ブラジルでえらんだ希望の研修ができましたことです。とてもよかったです。
7. 本邦での生活状況
私にとって日本での生活はとてもよかったです。
農家や、近所そして友だちにめぐまれましたので、もんだいはありませんでした。皆さんによくしてもらいました。たぶんじぶんが日本語ができたためだと思います。
8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項
もっとこうはいと出会いがあればいいと思います。
9. 帰国後の計画
ブラジルへ帰ったら今までやっていたことをやっていきたいと思います。そして一年間日本での研修で学んだことをたいせつにして農業をいかしていきたいと思います。
10. 所感
日本で研修が出来ましてとてもよかったです。
たくさんの人たちとこうりゅうが出来ましてそれぞれいいところがありました。日本の農業、生活人間かんけい

矢 島 緑

(ドミニカ共和国 サント・ドミンゴ)



1. 研修機関および研修期間
 - (1) ユニバーサル電子計算(株) 2年4月～3年3月
 - (2) 同 上 3年4月～3年9月
2. 受入期間 (来日日～離日日)
平成2年4月～3年9月
3. 研修科目 コンピュータ
4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)
世界でコンピュータのソフトやハード等に付いて最も進んでいる国は、日本であり、この技術がどこまで応用されているか、どのシステムを使用しているか等を学びたかったので、国際協力事業団に希望して、日本に来ました。
コンピュータ分野は広いのですが、主に勉強したかったのは、次のとおりです。
 - ・システム分析
 - ・プログラムの修正
 - ・システム設計
 - ・プログラムの保守
 - ・プログラム (COBOL言語) の作成

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

最初の一週間、合同研修会があって、その後、5月の中旬までは、日本語講習を受けました。講習では、日本の国語、歴史、習慣、歌、生花、お茶、書道などの勉強をしました。

5月14日より、ユニバーサル電子計算機で研修が始まりました。

研修内容としては、

- ・ C A I システム勉強
 - －情報処理技術者育成用コースウェア（COBOL 言語、データベース、DBASE III PLUS基本編）
 - －第2種情報処理技術者試験
- ・ フローチャートの作成
- ・ COBOL LEVEL II プログラミング
 - －プログラム設計
 - －コーディング、コンパイル、デバッグ、実行
 - －ドキュメント等作成
- ・ 一太郎
- ・ DBXL（リレーショナル、データベース）
- ・ 情報処理試験勉強
- ・ システム設計、システム分析（部内のプロジェクト管理システム）
- ・ O A ショー見学
 - －日参自動車追浜工場
 - －福島
 - －青森

最初の頃は、専門用語を習うために色々な本を読んだり、C A I システムの勉強をしました。

又、COBOLのプログラムを作成しました。

最後の半年は、会社部内で使うための“プロジェクト管理”システムの開発を行いました。あまり時間が無かったので、システムの一部分のプログラミングしか出来ませんでした。三本のプログラムを作成しましたが、システムを完成出来無かったのが残念でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修生として来る前にコンピュータの基本的な知識の勉強をしましたが、日本語（会話、読み書き）の方は問題があって心配していました。

会社に入ってからコンピュータ専用の本を読むことや理解できるようになり、当初の研修計画通りで勉強をさせていただきましたが、あまり満足できませんでした。研修がもう少し詳しい内容で、実習も多ければいいと思いました。

7. 本邦での生活状況

私はこの一年半ずっと海外移住センターで生活していましたので、問題がありませんでした。センターは設備も良く、住んでいる間にいっぱい友達ができただけであまり淋しく感じませんでした。とても楽しい生活でした。この面で困った事はありませんでした。

最初は日本人の友達を作るのは結構時間が掛かりましたが、結局すごく仲の良い友達できました。日本でこんなに親しい友達が出来るとは、思っていませんでした。毎週末、センターや会社の友達と出かけたり、遊びに行ったり、親戚の家に行ったりしていました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

この期間に、役に立つ研修を出来る為に、日本に来る前に日本語（会話、読み書き）を良く勉強をするようにした方がいいと思います。

研修先に対して、勉強したい事項や、やる方法等を決めといた方がもっといい研修内容になると思います。あとは、日本にいる間に、なるべくいっぱい友達を作ったり、大切にしたり、日本の習慣を理解したりしてほしいと思います。

9. 帰国後の計画

来る前にコンピュータ関係の会社に勤めていたので帰国後、同じ仕事を続けることが決まっています。

一応、日本で学んだ技術が応用できます。

コンピュータ（ソフトウェア）範囲が広くて、まだ学びたい知識がいっぱいありますので、帰っても勉強を続けたいと思っています。

10. 所感

日本で一年半、研修生活をして、あっというまに過ぎたが、振り返ると楽しい事や淋しい事がありました。色々な思い出が出て、大変良い経験ができました。

それと日本で仲の良い友達が出きましたが、こんなにフランクに打ちとける友達が出きるとは思ってなかったです。

国際協力事業団の方、ユニバーサル電子計算機の方、研修員の皆様、センターの皆様、そして友達、一年半大変お世話になりました。

どうもありがとうございました。

加藤 絵里
(メキシコ メキシコ)



1. 研修機関及び研修機関

- (1) 神奈川県藤沢高等職業技術校 2年4月～3年3月
- (2) 同 上 3年4月～3年9月

2. 受入機関 (来日日～離日日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 アパレル技術 (服飾)

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

日本に来る前はメキシコで「デザインモードスクール」に入って洋裁を習っていました。でも向こうではこの様なスクールは建ててから間もないので(2～3年前)ちゃんとした構成がありません。その為、一旦、学校をやめ直接実地で学んだ方が良いと考え、今メキシコで活躍している田口先生のオートクチュールのお店に入り、一年ぐらい修業をしました。この時にJICAの子弟研修制度の事を知りました。テーマはアパレル技術を選び日本で洋裁の基礎技術をまず第一に身につけて、これに伴って感覚、物の見方等を広めたいと思いました。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

私は藤沢高等技術校の二年課程アパレル技術系のアパレルシステムコースで学ぶ事になりました。

アパレル産業と言うのは、人が身につける衣服の生産に必要な基礎、技術と今はコンピュータを利用したパターンメイキング、グレイディング等の技術を学び、企画の為のデザイン、市場調査、情報収集の分析を行なって価格や販売活動を決める為の人材の育成が目的です。

学習活動は必修単元と選択単元で構成されています。必修単元では婦人服の縫製に必要な洋裁用具の取扱い(動力ミシン、アイロン等)、文書実務(パソコンの基礎知識)基礎、縫い技法、部分縫い等の基本を経てブラウス、スカート、ワンピース等の縫製、その他に情報処理概論、基礎経営管理、製図技法、洋裁の為の知識を学びました。

後の一年は選択基礎単元で構成されており、生産管理技法、基礎製作技法、ファッションショー企画、デザイン技法、製図(応用)、ディスプレイ技法、ドレピング、アパレルコンピュータ操作法、商品企画、二次元デザインコンピュータと職業指導でまとめられていました。

その他に研修で婦人服の縫製工場やデパートのディスプレイのやり方を見学しに行きました。又、何回かファッションショーも見に行く事もできました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画は最初に書いた様に洋裁の基礎技術を身につけ、デザインに対しての感覚を広める事でした。

学校に通い一から基礎を見る事が出来たのでとても良かったです。その他にも製図の引き方

等も見れました。でも技術校だった為デザインの方は思ったほど勉強する事が出来ませんでした。だからデザインに対して感覚を補う為、週末は町に出ては物（洋服）の色、デザイン等を良く見に歩いていました。

7. 本邦での生活状況

海外移住センターで生活することにあたったので、特に問題はありませんでした。場所的にも恵まれて、駅、スーパー、銀行等が近くとても便利でした。

又、センターでは人の出入りが多い為いろんな人達と生活が出来さまざまな生活習慣を見ることもでき勉強になりました。

学校での生活感については最初は少し不安感がありました。大体のクラスメートは十八、十九才の人が多く、考え方や行動が自分とは違う為、どの様にしたら近づけるかと言う疑問がありました。でも気が付いたときはもう皆とうちとけていて毎日の学校生活はとても楽しかったです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

だんだんと日系社会で日本語を話す人が少なくなっています。その為子弟研修制度を通して日本に来るのはとても良い機会だと思います。でもやはり少なくとも日常会話が出来るぐらいの程度でないと、日本での一年半、生活するのはとても大変です。だから研修生を選択する時の一番重要なポイントは日本語の読み書き、日常会話が出来ることだと思います。

もう一つ要望としては各々、自分の国のJICA事務所に何を研修、やりたいのかを内容を良く話し合い、研修先を決め、はっきりとプラン（プログラム）を立ててから日本に来た方が良く感じました。

9. 帰国後の計画

帰国後は日本に来る前まで勤めていたオートクチュールのお店に戻り、まだまだ覚えなくてはならない事が沢山あるので少なくともそこで修業をして、いずれは自分のアパレル工場を建て日本で学んだ技術を生かしてメキシコで品質（縫製、デザイン、布地）の高い製品を作りたいです。

10. 所感

私はこの一年半とても貴重な時を過ごせました。

きっと、生涯二度とこのような体験は出来ないと思います。

こんな、素晴らしい体験をさせてくれたJICAに深く感謝します。

そこで、私がこの一年半、どんな体験をし、どう感じたか言葉では言い切れませんが書いてみます。

私が、最初に日本に来て違う人間、違う文化に触れた時、とまどいはかくしきれませんでした。その上センターでは初めての団体生活だったので、規則や人間関係に気を使う日々でした。始めて、家を離れて親のありがたみ家族の暖かさ等、今まで近すぎて見えなかったことを見る

事ができたと同時に一人で生活してゆくことは本当に大変な事であると認識しました。この一年半で自分自身忍耐強くなれたと思います。

また学校での団体生活はとても有意義なものでした。勉学はもちろんのこと、日本の若者との触れあいの中、たくさんの友人もできました。親切なクラスメートにも恵まれたおかげで、勉強以外のいろいろな事も知る事ができ、又、ある時には、力になってくれたりはげましてもらったりと人間の暖かみに触ることができました。そんなクラスメートに恵まれ、又私は日本人の血が流れているせいかすぐに日本の生活にうちとけることができました。

しかし少し残念に思った事は日本人は個性をあまり持ち備えていないということです。私が日本で生活してみてこれらの要因を考えてみると、あまりにも日本社会は、常に常識に縛られ、体制をたえず気にしていなければならない国であるから個性が失われるのだと思いました。街中を歩いてみると若者が似た様な身なりをしているのはその象徴だと思います。又、私の祖国メキシコと比べてみると治安の良さは、安定した社会、やはり経済大国日本であると感じました。

この一年半、日本で学んだ事をメキシコに持ち帰り生かし続けたいと思います。日本での沢山の思い出は一生の思い出になると思います。

池 内 溜

(パラグアイ アルト・パラナ)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) M. S. K東急機械株式会社 2年5月～2年11月
- (2) 帯広高等技術専門学院(溶接科) 2年11月～3年3月
- (3) 室蘭高等技術専門学院(機械科) 3年4月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 機械修理, 溶接, 旋盤

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

計画はパラグアイに帰っても十分通用するようになる事でした。

大型機械の修理, 溶接, 旋盤ではネジ切りが出来る用になるのが目標でした。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

- 1) 90年5月16日～11月15日までM. S. K東急機械で大型機械の修理を研修しました。修理と言ったらコンバイン, トラクター, 農機具などを直したりすることです。それと最後の1ヶ月ぐらい会社から民間の会社に一週間ぐらい燃料ポンプ, エンジンの組み立て, セルモータの修理などの勉強をさせてもらいました。今までやった事の無いことを経験して良かった

と思います。

- 2) 90年11月19日～91年3月20日まで帯広高等技術学院で溶接を研修させていただきました。初めは不安でしたが、学院のほうで特別カリキュラムを作ってくれ、溶接科の課長が4ヶ月間でほしい1年の事を教えてくれることになり本当に自分で思っていたよりも、覚えられることが出来てラッキーだったと思います。

- 3) 91年4月10日から室蘭高等技術専門学院機械科で研修をした、学科では工作法と測定法の授業を実技では旋盤作業を主とした訓練計画で進められた。

4月12日から旋盤の取扱実習が始り、特に難しかったのは単動チャックでの心だして4本の爪に工作物をくわえ、ハンドル操作で中心に移動する作業でした、6日目にしていままで使ったことの無いマイクロメータを使い加工した工作物の外径測定をした。数値は1ミリの100分の1という考えたことの無かった本当に細かい数字であった。作業内容はいろいろ有るけれども、中でも一番印象に残るのはネジまで切れればいいのではないかと思っていた。

旋盤を使った応用作業では、丸い材料を使って角にしたり、旋盤をフライス盤のかわりにしてスベル溝を切ったり、穴あけをしたり普通考えるととても出来ないような活用を覚えてもらうことが出来た。

最終的には二級技能士のレベルまでなれることが出来て本当に良かったです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

大型機械の方では思っていたよりもやりたい事が出来なかったので少し残念かったです。

6ヶ月間と言う短い期間の中で、旋盤での目標はネジが切れるようになることでした。

初めはすごく不安でした。この6ヶ月間の間で自分の目標が果たせるのかと心配でした。所が学院の方で特別カリキュラムを作ってくれその中には2級技能士のレベルになることでした。

自分の目標はネジ切りまでだったのが終わってみるとわずか6ヶ月間の間で思っていなかったカリキュラムの中に有る2級技能士のレベルになれたことがとても嬉しかったです。

7. 本邦での生活状況

北海道は四季がはっきりしているのでとても素晴らしい所でした。室蘭では6ヶ月もの間海を目の前にして生活出来た事が本当に良かったです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

大型機械の修理、溶接、機械（旋盤）等の勉強をしたい方は北海道の方が良いと思います。

9. 帰国後の計画

帰国後2～3年は農業をやりながら自分の機械の修理、旋盤、溶接などをやって腕を磨き自信が出来たら旋盤と溶接にしぼり、少しでも移住地のためになりたいと思っております。

10. 所感

この1年半僕にとって本当に良い体験、そしていろんな人に出会い勉強になりました。1年半と言う月日は長いようで短かった。

星野真一 ファビオ

(パラグアイ ラ・コルメナ)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 株式会社 ムラウチ 90年5月～91年3月
- (2) " " 91年3月～91年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

90年4月～91年9月

3. 研修科目 家電修理

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

進んだ日本の国で, 家電修理の技術がどのようにして行なわれているか, 又, その中で主にテレビとビデオの修理を学びたいと思っていました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

八王子の株式会社ムラウチで家電修理の研修をやらせていただきました。

1) はじめの一年間テレビの修理をやりました。その中で主な修理について書きたいと思いません。

a) ラスター音出ず

- テレビの画面と音声の故障
- P B T, 水平出力

b) 横一

- 画面が横いっぱいになる。
- 垂直の I C, 又24Vらいの R, Dショート。

c) 画面がちじむ

- T Vの画面が少しちぢんだ状態
- 垂直の近くの Cをみる。

d) 電源きれず

- S Wがはいりっぱなし
- 電源 S W又リレの故障。

e) チューニングできず

- チャンネルがずれてしまう。
- チューナーの故障

f) 着線が流れる

- 画面は着線だらけ
- 水平同期 U R 又垂直同期 U R

2) 残りの半年はビデオも少しやらせていただきました。そのなかでの主な修理について書き

たいと思います。

a) テープ絡む

-故障部品：ピンチローラ、テンションバンド、磨耗品

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本に来て一番の心配は、実際にテレビとビデオの研修が出来るかどうかでした。また、ぼくのようにテレビなどを開けたこともない者が本当に直せるようになるのかと心配でした。しかし、研修を終えてみれば、自分で思っていた以上によく出来たと思っています。

7. 本邦での生活状況

一年半の日本での生活で困ったことは特にありませんでした。センターではちがう国の研修生達と一緒に生活をしていたので、さびしいことはありませんでした。また研修先でも皆が親切にしてくれたおかげでとても良く研修ができてよかったです。

センターにはいろいろな研修生がいるおかげで友達もいっぱいできまし、みんながやさしい人ばかりだったのでいい思い出になりました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

- a) 日本に来る前に自分のやりたいことをハッキリしておく。
- b) 日本語をしっかりと勉強してくるようにしてほしい。
- c) 研修はもちろん大切だが、社会的な勉強もしてほしい。
- d) 自分に無理のない研修をしてもらいたい。

9. 帰国後の計画

まだはっきり決まっていますが、家電の勉強を続けるか、会社に入って仕事をしようかと思っています。

10. 所感

子弟研修員として早くも、一年半が過ぎていきました。この一年半を思いおこしてみれば、色々と思いでがあり、みんなに親切にしてもらったり、困っている時、助けてもらったりして、たくさんの人達とめぐり会えることだできてとてもよかったです。これからも人との出会いを大切にしたいと思っています。

さてこれから国へ帰って今まで自分が学んだことを生かすために帰ってからも勉強を続けたいと思います。

最後になりますが、国際協力事業団の皆さん、ムラウチ(株)の皆さんまた、研修員の皆さんには、一年半にわたり色々とお力になっていただきまして心あつくお礼申し上げます。

大橋スサナ エステル

(ペルー リマ)



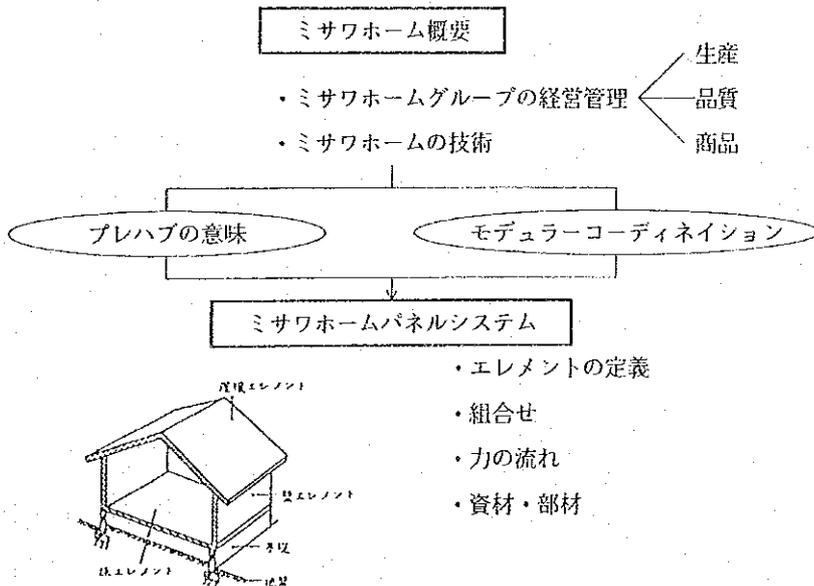
1. 研修機関及び研修期間
 - (1) 建設省建築研究所 2年5月～3年3月
 - (2) ミサワホーム株式会社 3年4月～3年9月
2. 受入期間(来日～離日)
2年4月～3年9月
3. 研修科目 住宅プレハブ技術

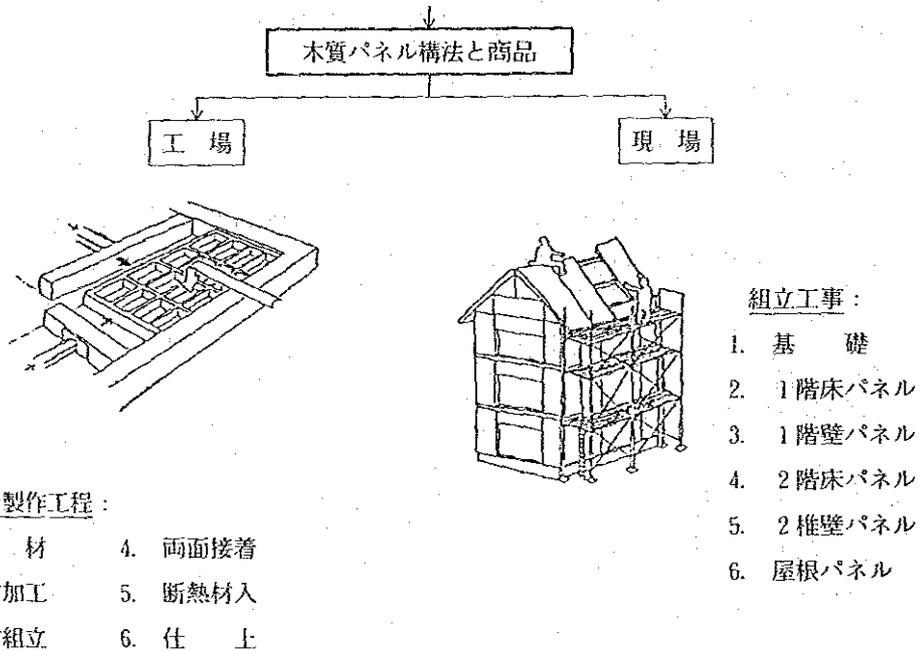
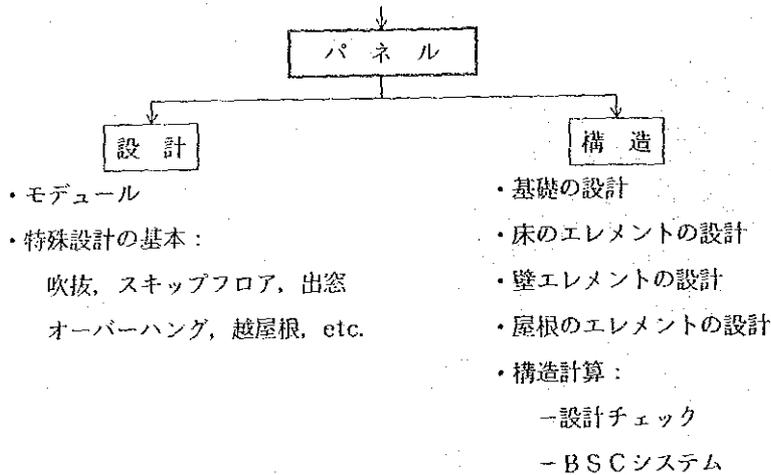
4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

最初に私の研修計画は、研修が始まる前に計画したものとまったく違った、「第四研究部住宅建設研究室」という部局だったので、プレハブ技術の授業や実験や文書などがあると思っていたが、無かった。自分ひとりで研修をやったし、担当者の専門が私と全然違うので、研修計画を替えた。建築研究所でもらった情報で、日本の住宅建設方法についてレポートを書く予定になった。

5. 研修概要(具体的内容及び成果)

ミサワホームという木造プレハブ会社に入った時から、当初の研修計画ができた。プレハブの木質パネルシステム工法の勉強した。





6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私の場合は、建築研究所にいた間には住宅プレハブ技術の細かい情報が見付けられなかった。だから、当初の計画を変えて、日本の一般的な住宅状況についてレポートを書いた。しかし、研究所で研修した事がミサワホームを選ぶために役に立ったと思う。又、その期間に、専門にかんじた面白い見学が出来た。例えば、「第3回在日研修生、留学のためのIYS記念ハウジングセミナー」に参加したり、大和ハウス工場見学したり、国際地震工学研修旅行をしたり、勉強するのによい機会だった。

ミサワホームの場合には、始まる前に、自分で計画を作って、プログラムを作ってもらったの

で、興味がある事だけの勉強した。二つの研修先を比べてみると、ミサワホームの場合は、会社の人達にいつも、ミサワホームシステムの事を教えてもらったので、勉強が進んだ。又、会社に一人でいなかったの、日本語の練習も出来た。

7. 本邦での生活状況

私はもう一人のペルーの研修員と一緒に住んでいる。茨城県のつくば市のJICAのインターナショナルセンター(TBIC)のすぐ近所にアパートがあった。私の出費は、下記の通り：

生活費：

*アパートの家賃は、一か月で47,350円で、古賀さんと一緒に払うので、半分になる。

*生活費に関しては、例えば、電気、ガス、水道、下水道は、およそ14,000円で、半分にする
と7,000円なる。

食事：

昼御飯……研修先で食べた。¥900.-

晩御飯……TBIC(VICA筑波インターナショナルセンター)の食堂が安かったの、だ
いたいここで食べた。¥560.-

朝御飯……自分で作った。

一か月に、およそ45,000円だ。

交通：

建築研究所へ行っていた時にTBICのバスを使っていたので、交通費が無かった。

でも、研修がミサワホームに変わった時に、東京の高井戸まで通っていた。アパートを7:15
a.m.を出て、10:00a.m. ごろ会社に着いていた。

定期代は46,920円だった。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

新しい研修員は、研修が始まる前に、色々な不安な事があると思う。例えば、どんな会社だろ
う？どういうふうに日本人は働くの？何を頼めばいいのかな？という問題がある。

私達は会社で何の仕事ができるのか分からないが、会社の人達も私達が何がやりたいのも分か
らない。だから、研修を始める前に、作文に、はっきり書いた方がいいと思う。例えば、私の場
合は、ミサワホームへ挨拶をしに行った時に、ペルーで申し込んだときの作文のような書類をよ
り細かく書いて出した。

そういう作文を出せば、研修のプログラムを作ってもらえると思う。

又、自分の国に帰る前に研修レポートを書いたら、役に立つと思う。一週間に一回、一週間の
やった事をまとめて、レポートを作った方がよい。

9. 帰国後の計画

ペルーに帰って、建築家になるために、論文を出さなければならない。私は、いつも新しい住
宅建設工法について論文が書きたかったので、この機会に住宅プレハブ技術で木質パネルを応用

した工法を作ることである。論文を書いて、ペルーの木造建築の発展を図る仕事をやりたいと思う。

10. 所感

この研修の機会で、日本の政府は国際協力事業団で世界の開発の遅れている国に重要な協力をしている事が認められた。日系の人達だけでなく、世界中に対してだ。

私達の場合には、専門に関連している研修をしに日本に来て、「日本の練習の研修」をする。日本の技術を学びながら、日本の生活をするという意味だ。職業的にも、文化的にも、両方が重要な事だ。

ペルーの私達の世代の日系人は、だんだん日本の文化が無くなってしまっているのだから、この研修が、ペルーと日本の鎖を繋げる機会だ。

古賀ケテイ シャーレイ

(ペルー リマ)



1. 研修機関および研修期間

(1) 森林総合研究所 2年5月～3年9月

2. 受入期間(来日日～離日日)

2年4月～3年9月

3. 研修科目 樹木無性繁殖

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

樹木組織培養, 接木と挿木技術と研究方法を学びたかったのです。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

平成2年5月から平成3年9月まで森林総合研究所の組織培養研究室で講習を受けることになりました。でも、去年の6月に左足の2本骨を折ってしまって、最初と2回目の手術の回復の間併せたら、だいたい半年過ぎてしまいました。それから学んだ技術は次です。

- ・基本的な無菌組織培養でのガラス器具, 機器の操作
- ・培地の組成と作り方
- ・材料のサンプリング方法
- ・初代培養の為の組織分離方法と植えつぎの技術
- ・培養研究での効率的な苗条分化培地検索方法
- ・広葉樹と針葉樹の発根と苗条伸長培地実験
- ・広葉樹と針葉樹の培養個体の馴化技術
- ・継代培養用培地検索
- ・外植体の滅菌方法

- ・最適培地無機成分検索
- ・継代培養条件の検索
- ・組織培養による樹木貯蔵
- ・発根再生個体の馴化方法の検討
- ・挿木と接木用台木の技術
- ・不定胚誘導と分化培地検索

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

森林総合研究所に着いてからどういう研究を行っているかを調べたり、尋ねたりして希望として出来るだけの実習をさせて貰いました。接木の技術は丁度足の手術をして貰った時にした時期でしたので残念ながら行う事が出来ませんでした。挿木の場合はもう少し実習したかったけれども、研究室の皆さんの仕事に併せないといけなかったので、思いどおり勉強出来ませんでした。その代わりにアイソザイム技術を3週間位大変面白く学び将来役に立つと思っています。

当初の研修計画と実際に学んだ事は思ったより大変勉強になったと思っています。

7. 本邦での生活状況

生活の事について、筑波に着いてから初めの日にはアパートに入ったら空っぽで寝る布団もありませんでした。でも、御蔭様で友達が色々手伝って呉れて、少しずつ暮らすには良くなりました。ペルーで知り合った森林総合研究所の皆さんは大変優しくいつもお世話になっていました。電気、ガス、水道、下水は最初自分で払いに行って、後で銀行から自動的に払うことになって、とても便利になりました。アパート代だけ直接払っていました。私は何でも食べるので、日本料理は全然問題ありませんでした。交通だけ少し不便で、近くを通る、バスの数が少なくて、一時間置き、場所によっては一時間半置きです。でも、私の場合は緑が大好きでアパートの回りに田圃や自然が多かったので、住んでいた所は私にとって最高でした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

一番推薦する事は研修内容の事です。子弟研修員達が来る前に出来るだけ何回も連絡を受け取って貰って勉強したい希望をちゃんと国際協力事業団に尋ねる事が必要だと思います。研修先が違ったら研修時間が大変勿体ないと思います。半年置きにしか合同研修会が行われないので研修先の問題や困っていることを発表して解決するまでには時間が掛かりますので、研修内容は当初の希望どおりでないといけないと思います。

9. 帰国後の計画

現在ペルーの経済状態やゲリラや麻薬などの問題がありますので、私の国は困っています。大変な時代だけど、出来るだけ日本で学んだ樹木組織培養を生かす希望を持っています。出来ればペルー人と一緒に精一杯学んだ新しい技術を取り入れ、広める為に、ペルーの天然林を守りながら国家経済への貢献を益々高めて行きたいと思っています。

10. 所感

この一年半は国際協力事業団の御蔭で大変良い勉強と経験を出来まして一生感謝致します。

専門の先生達から色々な新しい技術を教えて頂き個人的にだけでなく、ペルーの為に一生懸命仕事をして頑張りたいと思っています。日本の生活や社会の考え方など色々勉強出来ましてどこへ行っても何があってもこれから歩く人生の為に役立ったと思っています。今まで色々大変お世話になりました誠に感謝しております。

山 内 一 男

(ペルー リマ)



1. 研修機関及び研修期間

- (1) 東京都立工業高等専門学校 2年4月11日～3年3月30日
- (2) 日本電機 I T R 及日本電気我孫子事業所
交換第二ネットワークシステム (事) 品質保証部
3年4月1日～3年9月30日

2. 受入期間 (来日日～離日日)

2年3月～3年9月27日

3. 研修科目 デジタル電話交換機の実操作&メンテナンス

4. 当初の研修計画 (テーマ, 研修内容等)

最新のデジタル電子技術を使用した衛星通信機器の実操作とメンテナンス。

5. 研修概要 (具体的研修内容及び成果)

1) 高等専門学校では、電気通信の基礎を学びました。

4年と5年の科目を学びました。

4年	{	- 電気通信工学 I	- 電子回路	- 剣道
		- 電子計算機	- 電気工学実験実習	
5年	{	- 半導体工学	- 電気通信工学 III	- 卒業研究 (参加)
		- 電子回路特論 II	- 電子計算機特論	

2) ◆日本電気 International Training で電話機, 通信網, 電話交換機の構造や働き等の学習。

NEAX61E の実操作とメンテナンスコース (ハード, ソフトウェア, O/M)

◆日本電気我孫子事業所ニネットの品保で NEAX61E デジタル

- ・電話交換機がシステムとして使われる電話局の交換機の試験 (タイ LOPBURI 局 (ローカル局), インドネシア TEBETC 局 (ローカル局), インドネシア TANJUNG PRIOK 局 (ローカル局))
- ・工事図面の見方
- ・O/M マニュアルによる I/O 機器の操作習得
- ・インドネシア総合試験用の変分手順書作成

ここでは主に電話交換機の試験をしながらオペレーションとメンテナンスをならいました。他にISONやATS, 光ファイバーを使う交換機などを研修しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初は衛星通信の方を研修したいと思っていましたが、色々考えて、電話交換機にきめました。交換機のメンテナンスも、最初はハード（機器）のトラブルが多いと思っていましたが、試験場では、ほとんどがソフトかデータのミスがげんいんです。

7. 本邦での生活状況

半年間アパートで一人ぐらしをしましたが、特に問題はなかったです。ただ食事がメンドウだったので、ほとんど冷凍食品ですませていました。

それからは半年間海外移住センターとNECの寮にいたので問題はなかったです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本語が出来ることを条件として、研修したいものをはっきりといわせて、実際にその研修ができるところをさがしてもらいたいです。

9. 帰国後の計画

出来れば日本電気の品質保証部でやってきたことで就職したいです。

10. 所感

研修目的を100%達成しませんでした。日本で得た経験はペルーに何年いても、一生できなかったことです。

治 田 美 理

(ウルグァイ モンテビデオ)



1. 研修機関および研修期間

(1) 新潟デザインセンター 平成2年5月～平成3年9月

2. 受入期間（来日日～離日日）

平成2年4月～平成3年9月

3. 研修科目 宣伝広告

4. 当初の研修計画（テーマ、研修内容等）

日本の広告代理店はどんな組織で、どんな風に仕事をしているのかを勉強をしたかったです。お客さんと打ち合わせの時から、広告が消費者に着く時まで、どんな段階をとって行くのか一つ一つ見たかったです。一番大切なのはテレビでしたが、新聞、チラシもラジオも知りたかったです。

5. 研修概要（具体的研修内容及び成果）

9月になって、この一年半やった事をふり返ると、成果は良かったです。思っていたこと、勉

強をしたかったこと本当にできました。それ以上覚えました。

最初は言葉の問題もありましたし、実際に広告の勉強をしていなかったのも、ちょっと困って
いました。

7月の合同研修会から帰って来てから勉強が進むようになって来ました。会社の担当者はコピー
ライターなので、私の研修もその方向に向くようになりました。そのため日本語の勉強にもな
りました。

今年に入ってから、取材にでかけたり、コメントを書くようになりました。取材のため、新潟
県のいろんな市町村を訪ねました。これは地理の勉強になりました。歴史の勉強にもなりました。

いろんな人と会いましたので、人間関係の勉強になりましたし、人生の勉強にまでなりました。
広告以上のことを覚えました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

結果的には、実際の研修は当初の研修計画より良かったです。

日本のコピーライターの仕事もできましたし、新潟県あちらこちら見れました。

もっと実習できると思いましたが、思いどおりの実習はできませんでした。

7. 本邦での生活状況

日本は親切な国で、市役所や駅などには、案内がちゃんと書いてあります。案内所だけでなく、
どんな人にもやさしく聞いたら相手もやさしく返事をして下さいます。

日本では安心できます。ただし酔っている人はきけんですから注意しないといけません。

アパートを借りて一人暮らしをしていました。最初はちょっと寂しかったですが、後は少しづ
つ一人で住むことのメリットが分かって来て、一人暮らしで良かったと思います。

便利な国で、何でもあって、きれいで、特に問題はありませんでした。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

一年半ってというのは、日本ではいろんなことが中途半端になります。学校も、仕事も、宿泊を
借りることまでもそうです。だからできれば2年コースになれたらいいなあと思います。一年半
の終りごろにはちょうどすっかり慣れて、本当に自分から研修をして、進むように感じて来る時
です。

9. 帰国後の計画

ウルグアイに帰ったらまた大学にもどります。これから3年になりますので、3年後に必ず卒
業をしたいと思います。そして、できれば広告代理店に勤めたいと思います。

10. 所感

日本はすてきな国です。両親時代の日本と違います。だんだん休みをとるようになって、休み
を利用して遊んだり、旅行にでたりしています。日本もだんだん国際的な国になって来て、今外
国人と合うのは全然めずらしくありません。日本は今一生懸命国際交流に頑張っています。それ
は日本、国としてだけじゃなくて、国民も頑張っています。これからの日本も期待しています。

研修総括報告書（24カ月コース）



本多美也子
(ポリヴィア サン・ファン)

1. 研修機関及び研修期間

(1) 和泉短期大学 1990年4月～1992年3月

2. 受入期間(来日日～離日日)

1990年4月～1992年3月

3. 研修科目 幼児教育

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)

当初の研修計画は, 音楽, 工作, リズムを勉強したいと思っていました。

和泉短期大学の先輩(山内さん)にどのような勉強をするのかたずねると, 思っているより大学の勉強についていくのは難しいと聞いた時は, おどろきました。

研修をうけたからには石にすがりついても頑張ろうと決意してきました。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

一年の前期, 社会福祉原論, 美術, 図画工作, 自動福祉論, 保育原理, 小児科学, 実習概論, 保育音楽Ⅰ, 小児体育, 環境, 発達心理学, 保育音楽Ⅲ, 教育実習Ⅰ, 小児体育Ⅱ, 小児栄養, 乳児保育

一年の後期, 保育内容総論, 言葉, 社会福祉, 保育原理, 保育音楽Ⅲ(ピアノ), 小児体育, 教育原理, 図画工作, 小児科学, 小児体育(デニス), 言葉Ⅰ, 教育心理学, 保育音楽, 保育所実習, 児童福祉, 発達心理学, 施設実習Ⅲ, 小児栄養, 教育原理, 自動福祉施設実習Ⅱ

二年の前期, 国語, 児童福祉特講B, 人間関係, 心身障害学, 精神衛生, 造形表現, 音楽表現, 家族福祉, 児童文学, 教育実習Ⅱ, 児童福祉方法論, 小児体育, 幼児教育理論, 介護概論

二年の後期, 国語, 造形表現Ⅰ, 造形表現Ⅱ, 幼児教育方法論, 家族福祉, 児童文学, 音楽表現, 保育音楽Ⅱ, 保育音楽Ⅳ(ピアノ), 法学, 視聴覚教育, 介護概論, 看護実習, キリスト教倫理, 健康, 環境Ⅱ

二年間で以上の科目を勉強しました。

これから実際に幼稚園で仕事をはじめて少しづつでも二年間勉強した成果がだせたらと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画よりはるかに必修科目が多く, 早くも困難の壁にぶつかりました。日本語の理解ができず, 朝方まで本にでて来る漢字を調べたりしました。

和泉短期大学は, 児童福祉学科で, 児童福祉に基づいた科目が多く, 又, 音楽もはばが広く, ピアノ, 童謡を弾くだけではなく, 実際に童謡を作ったりしました。

幼児にかんして全て勉強し, 又, 実際に教育実習で保育園, 施設(乳児院), 幼稚園で学ばせていただきました。

又、幼児教育の他に特別介護概論を勉強した理由は、これから障害児が幼稚園に入園しても対応できるように実際に車イス、松葉づえの使い方を学びました。

7. 本邦での生活状況

'90年の4月に来日して以来、大学のスケジュールがハードなうえ、日本語の理解ができないという壁にぶつかってしまって、朝方まで日本語の勉強をしていましたので、睡眠不足と過労で体調をくずして、一ヶ月大学を休んでしまいましたが、以後は勉強の方も順調に進みました。

昨年の1月と今年の1月に中学生が研修できていますが、試験中に来るので、中学生がねしずまった頃、起きて勉強しました。

食堂の方にはとってもお世話になりました。大学から帰宅すると、食事ができているので、地方で研修を受けている人達からくらべると恵まれた生活で、このような贅沢をしていいのだろうかと思ったほどです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

幼児教育の研修を受ける人はレベルの高い日本語が理解できること。

日本に来る前にせめてピアノの基礎(BEYER)を50番まで弾ける事が大切だと思います。どの短期大学でもピアノは必修でついていくのが困難です。

9. 帰国後の計画

サンファン移住地の幼稚園、学校で仕事する予定です。午前中は幼稚園、午後は小学校で音楽の授業を受け持つ予定です。

工藤公仁エドウィン

(ブラジル イガラッペアス)



1. 研修機関および研修期間

(2) 青森中央短期大学 1990年4月～1992年3月

2. 受入期間(来日日～離日日)

1990年4月～1992年3月

3. 研修科目 コンピュータ(経営情報学科)

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

コンピュータのプログラム、ハードウェア、ソフトウェアについて基本的なことから学び、いろいろな分野に適した使いわけ、使用効率などについて学ぶことが目的であった。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

第1学年

平成2年4月 入学式

平成2年4月 16日～19日フレッシュマントレーニング

平成2年5月	平常授業
平成2年6月	平常授業
平成2年7月	前期試験
平成2年8月	夏季休業
平成2年9月	後期授業開始
平成2年9月	29日～30日大学祭
平成2年10月	平常授業
平成2年11月	平常授業
平成2年12月	冬季休業
平成3年1月	授業開始
平成3年2月	後期試験
平成3年2月	ウィンタートレーニング
平成3年3月	卒業式

第2学年

平成3年4月	2年生始業ガイダンス 特別研究開始
平成3年5月	平常授業
平成3年6月	平常授業
平成3年7月	前期試験
平成3年8月	夏季休業
平成3年9月	後期授業開始
平成3年9月	28日～29日大学祭
平成3年10月	平常授業
平成3年11月	平常授業
平成3年12月	2日～6日特別研究発表会（論文）
平成3年12月	8日～ 冬季休業
平成4年1月	授業開始
平成4年1月	25日～2月1日後期試験
平成4年2月	卒業生氏名発表
平成4年3月	卒業式

大学での2年間の生活でいろいろなことを学んだ。入学式を始め、フレッシュマントレーニングではオリエンテーション、先生、学生たちの全員での交流の場を図った団体行動生活などもあった。

授業でははじめは戸惑うことが多かったが、少しずつ慣れてきて不安もなくなった。大学では正規の学生と変わらないこともあったため、日本の大学のシステムなどを始め、授業、試験、大

学祭などといったイベントにも参加した。コンピュータ分野でも基本的なことを幅広く学び、数多くのこと経験して充実感のある大学生活ができた。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画としてコンピュータに関するプログラム、ハードウェア、ソフトウェアなどを基本的なことから学び専門的な分野に取りくむことが目的であった。

当大学に入学し、経営情報学科で学ぶことになったが、当大学では一般教養の科目などを含め経営に関する科目といろいろな分野から成りたっていた。もちろんコンピュータに関する授業も多いが、思っていたほど専門的ではなかった。しかし、研修が進むにつれ、自分の計画とは少し異なっていたが多いに期待感が湧いてきた。

コンピュータについての基礎を学び、多方面でのことも数多く学べたので自分の思っていた以上に充実、成果のある研修になったと思う。

7. 本邦での生活状況

私は2年間大学の学生寮に入ったため、生活面でのトラブルはあまりなかった。始めは環境も習慣も今までとはちがった場での生活に不安を持ち、学生たちとの話題もあまり合わず心配したが、すぐに慣れ友達もたくさんできた。

唯一苦になったのが寒さだった。私の研修先が青森であったため、初体験の本格的な冬にはびっくりした。しかし、気が付けば2度目の冬も終わり、生活面についても良い経験になった。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

特になし。

9. 帰国後の計画

私は大学を休学しているため、帰国後も続けたいと思う。理想としては就職して夜間大学に通うことである。就職先では自分が日本で学んだことを多いに生かして多方面で数多くの人々、物事に貢献したいと思う。

10. 所感

日本での研修生活で学んだことは研修面だけでなく、数多く様々なことを体験し物事に対して幅広い考え方ができるということを実感した。

良かったこと、良くなかったことすべての面で非常に大きな勉強になったと思う。

吉 野 澄 恵
(ブラジル マナオス)



1. 研修機関および研修期間
(1) 和泉短期大学児童福祉科 2年4月～4年3月
2. 受入期間(来日～離日)
2年4月～4年3月
3. 研修科目 幼児教育
4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容等)
幼児教育における, 基礎的, 専門的知識および技術を学び, 現場における実際の活動経験をすること。
5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)
 1. キリスト教概論 キリスト教主義の短大なのでキリスト教について学ぶ, 内容は, 人間, 神, 救済, 信仰などについて
 2. 法 学 日本国憲法について学ぶ
 3. キリスト教倫理 キリスト教を基にした倫理について
 4. 社会福祉原論 福祉についての基本的理念などについて
 5. 児童福祉論 児童福祉とは何かを学ぶ
 6. 保育原理 保育とは何かについて
 7. 教育原理 教育とは何かについて
 8. 発達心理学 ヒトの一生の心理学上の発達, 特性などについて
 9. 小児科学 幼児の正常な発達について
 10. 社会福祉 社会福祉とは何か, その歴史などについて
 11. 教育心理学 幼児心理の特徴に対応する教育のあり方などについて
 12. 心身障害学 心身障害全般について
 13. 精神衛生 精神衛生とは
 14. 看護実習 子供の発達, 病気やケガなどについて
 15. 保育音楽 I, II 音楽の基本的技能を身につけるため
 16. " III, IV ピアノを学ぶ
 17. 小児体育 I 身体のリズミカルな感覚を養う演習である
 18. " II 体育的に運動について学ぶ
 19. 健康 I 健康について色々な視点から学ぶ
 20. " II Iの基本的知識をもとにして実際的な観察などを行う
 21. 環境 I 研究活動を行い, 環境や自然に対しての理解を深める
 22. " II 幼児をとりまく環境理解とどのように環境を作り上げるかについて

- 23. 言葉 I 言葉指導計画と内容について
- 24. 人間関係 幼児が人とかかわる力をどのように育てていくか
- 25. 保育内容総論 保育内容の構造、方法、歴史などについて

上にあげたように、この他にも数多くの科目があり、2年間で学ぶ科目数は、54科目であった。そのうち本当に必要なのか、と思うものもあったが、今となれば学んでおいて良かったと思うものばかりである。またこの他現場（保育園、幼稚園、施設）における3週間ずつの実習も含まれおり、授業で学んだことを実際に経験し、実感できたことはとても良かった。また、長期の休みの時は、保育園へボランティアにも行くことができ良かったと思っている。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

短大での授業にそった研修となったが、現場における実習も含まれており、予想以上のものとなった。

また、幼稚園教諭二種免許および保育士の取得に必要な専門的な科目がとても勉強になったと思う。

7. 本邦での生活状況

海外移住センターでの生活だったので特に不自由することはなかったし、健康面でもこれといった病気もせず無事に過ごすことができた。また私の場合は日本語のほうが楽なので言葉によるストレスなどもなく問題なかったが、ただ冬の寒さには、ずい分苦労したと思う。アマゾンでの9年間の生活のなどでは、冬の寒さもすっかり忘れてしまっていたので、1年目の冬は、とても寒い思いをしたが、他には特に大変だったことはない。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修に来る者がその学ぼうとすることについてどれだけ知識を持っているか、また技術を持っているか、どういったことを学びたいかをしっかりと本人もJICAも把握しておいてもらえらるともっと良いと思う。

9. 帰国後の計画

日本に来るまで行っていた幼稚園にもどり、教師を続けるつもりである。また、日本語学級も開いているのでそこで日本語も教えることになると思う。

10. 所感

長かったが短かった2年間だと思います。しかし、今、この研修で日本へ来て良かったと心から思えます。幼児教育について学ぶことができ、そして南米では会うこともなかったであろう。すばらしい仲間とめぐり会えたことは私にとって大きな宝となりました。今南米は大変ですが、今しか出来ないかも知れないこのことを精一杯やってみようと思っています。2年間お世話になった方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。



松 永 末 子
(パラグアイ ラ・パス)

1. 研修機関及び研修期間

(1) 高知女子大学保育短期大学部 2年4月～4年3月

2. 受入期間(来日日～離日日)

平成2年4月～平成4年3月

3. 研修科目 幼児教育

4. 当初の研修計画(テーマ, 研修内容)

- ・ 絵画指導, 遊戯指導, 音楽指導などを受ける。
- ・ 日本語を通して楽しい学習体験, 生活体験をさせることを学ぶ。
- ・ 日本人の生活観, 倫理観について学ぶ。
- ・ 自分の日本語のレベルアップと幼児教育における基礎的な知識を得る。
- ・ 日本の文化, 伝統, 社会のしくみなどを学ぶ。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

一般教育科目では人文科学, 社会学, 自然科学があり, 人文科学の中では哲学Ⅰ, 倫理学, 歴史学, 文学Ⅰ, Ⅱ, 美術を学ぶ。

社会科学では心理学Ⅰ, 社会学Ⅰ, 社会学特論, 自然科学では統計学, 生物学Ⅰ, 生物特論, などを学ぶ。

幼児必修科目で次のものを学ぶ:

- ・ 日本国憲法: 国民の権利がどのように規定されており実際にはいかに変化させられているかを学ぶ。
- ・ 教育課程総論: 教育課程とは, 教育課程の歴史, 系譜, 教育課程編成の基本問題について学ぶ。
- ・ 教育史: 近, 現代の教育の源, となっている考え方, 見分等を批判的に理解する。
- ・ 教育方法論
- ・ 保育内容総論: 遊びのもつ総合性について学ぶ。
- ・ 保育援助論
- ・ 国語
- ・ 教育実習の研究

専門教育科目の福祉では次のものを学ぶ:

- ・ 社会福祉Ⅰ, Ⅱ: 社会福祉の持つ意義の重要性を学ぶ。社会福祉の専門技術について学ぶ。
- ・ 児童福祉: 児童の福祉について学ぶ。

専門教育科目の保育, 教育では次のものを学ぶ:

- ・ 教育原理: 子どもの教育にとって必要と思われる教育的概念及び知識を得る。
- ・ 保育原理: 保育所保育を重点的に考究し, 学習する。

- ・養護原理Ⅰ：児童養護の基礎的概念と体系的知識を習得する。施設養護の社会的意義を学ぶ。
- ・障害児教育Ⅰ：障害児とは、障害児教育と社会、障害児教育の目的、内容と方法を学ぶ。
- ・同和教育：部落問題の形成と解放の歩みや現代社会での差別の構造を学習する。

専門教育科目の心理学では次のものを学ぶ：

- ・青年心理学：今日の青年をとりまく問題についてグループ学習をする。
- ・臨床心理学：臨床心理学の基礎理論を学習する。具体的な心理診断技法及び心理療法について学習する。
- ・児童心理学：乳児期からの各機能の発達を理解し学習する。
- ・教育心理学：発達、学習、評価の3領域について学ぶ。

専門教育科目の保健では次のものを学ぶ：

- ・小児保健Ⅰ：小児の発達の途上で起こりやすい疾病、異常、傷害などについて理解する。又、その予防や正しいとりあつかい方を習得する。
- ・小児保健Ⅱ：障害児の出生予防について学ぶ。健康管理、保健指導の知識と技術も習得する。
- ・小児保健実習：適正養護、家庭看護、救急処置の技術を習得する。
- ・精神衛生：それぞれの発達段階において必要な精神衛生の問題について学ぶ。
- ・小児栄養：意義と目的、栄養状態の評価、栄養素と食品、乳幼児栄養等について学ぶ。
- ・小児栄養実習：成人女子、妊娠・授乳婦の食事、離乳期食、幼児食、給食等を実習する。

保育内容では次のものを学ぶ：

- ・保育内容研究Ⅰ（こどもと環境）：自然環境が子どもの発達、成長における役割を会得することについて学ぶ。子どもと社会の諸問題について学ぶ。
- ・保育内容研究Ⅱ（こどもの生活、遊びⅠ）：健康と安全に必要な生活習慣や態度について学ぶ、子どもの表現について学習する。
- ・保育内容研究Ⅲ（こどもの文化Ⅰ）：言語指導の実践に必要な方法、技術を習得、造形表現の教育理念、目標について学ぶ。
- ・保育内容研究Ⅳ（こどもの生活、遊びⅡ）：乳幼児の健康管理と増進、安全保育について学ぶ。
- ・保育内容研究Ⅵ（こどもの文化Ⅱ）
- ・保育内容研究Ⅶ（こどもの文化Ⅲ）：想像する楽しさを経験させるために保育者はどのように関わればよいかについて学ぶ。
- ・乳児保育Ⅰ：集団保育による0、1、2歳児保育の制度と内容、保育方法について学ぶ。
- ・音楽Ⅰ、Ⅱ：音楽技能を総合的に学習する。
- ・図画工作：造形の感覚、表現力を養う。
- ・体育：体育遊びや幼児体育などの指導内容、指導方法について学ぶ。
- ・ピアノレッスン
- ・保育実習Ⅰ、学内保育所実習：附属保育所におけるグループ実習により、幼児保育についての

基本的な理解を得る。又、保育活動についての体験的理解を得る。

- ・保育所実習Ⅰ，Ⅱ，学外保育所実習：14日間の保育所実習は、観察・参加・指導（部分・総合）実習を行う。保育内容や保育方法について知識や技術を学ぶと共に保育記録の書き方、指導計画の立案について指導を受ける。
- ・保育実習Ⅰ，Ⅲ：養護施設と重症心身障害児施設にそれぞれ10日間実習をする。ここでは保母の職務内容や役割について知識や技能を修得する。
- ・教育実習：4週で観察、参加、指導実習に分けて行う。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

幼児教育とは幼児を「教える」ものだという概念があったため、実際の幼児教育とは幼児を守り育て援助していくものだと知ったときは少しとまどってしまった。幼児教育と小学校の違いが理解できると、自分は小学校を教えることができるのだろうかと不安になってしまった。だが、幼児教育の根本的なものから学び、音楽リズム、レクリエーション・ゲーム指導を受け、絵画指導では簡単に行えるフィンガーペインティング、絵本の選び方、読み方と当初の研修計画で予想していた以上に色々なことを学ぶことができた。これらのものを生かして、小学校を教えることができるだろうと思いました。

7. 本邦での生活状況

最初の2ヵ月間は女子寮で過ごしました。寮はやはり、規則、門限、入浴の時間が決まっていたので何かと不便だった。そのあとアパートに移ることができた。大家さんをはじめ、廻りの人は何かと面倒を見てくれ、地域の人ともコミュニケーションをもつことができた。

アパートでは、電気、水道、ガスの支払をはじめ、全部自分でやっていたらいけないので大変でしたが、友人が遊びに来ることができたので楽しかったし、またさみしいおもいをしなくて済みました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

やはり研修で一番困難に思ったことは、苦手だったピアノでした。研修にくるまえに習っておくとよいなと思いました。そして、パラグアイに関する資料やパラグアイの童謡を調べておくとか何かと便利だと思います。

9. 帰国後の計画

自分は今まで学んだものを生かし、小学校を教えていきたいと思っています。低学年を受け持つことになっているので退屈しないように、絵本やお話、ゲームを取り入れた授業を行ったり、レクリエーション指導をしたいと思っています。

10. 所感

この2年間の研修生活の中では友だちも多くでき、自分の視野を広げることができたと思います。研修の勉強の他に趣味的なもの、華道や織物を学ぶことができました。

研修のチャンスを与えてくれた、JICA関係の方達や現地の日会の職員の方達には心から感

謝しています。又、仲良くしていただいた同じ仲間達にも一言、お礼がいたいものです。皆さん、どうもありがとうございました。

武 藤 瑞 穂

(パラグァイ アスンシオン)



1. 研修機関及び研修期間

(1) 岩手県立盛岡短期大学 2年4月～4年3月

2. 受入期間(来日～離日)

2年4月～4年3月

3. 研修科目 幼児教育

4. 当初の研修計画(テーマ、研修内容等)

幼児教育に必要な専門知識と技術、それらの応用の仕方を学ぶとともに、余暇を利用して、音楽、絵画等幅広く勉強し、いろいろな文化活動に参加する。

5. 研修概要(具体的研修内容及び成果)

一般教育科目：国文学Ⅰ、国文学Ⅱ、歴史Ⅰ、法学、社会学、心理学、生物学Ⅰ、統計学、英語Ⅰ、保健体育講義、体育実技

専門教育科目：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、図画工作、体育、国語、教育原理、保育原理Ⅰ-Ⅰ、保育原理Ⅰ-Ⅱ、保育原理Ⅱ、保育教材論、保育計画論、養護原理Ⅰ、養護原理Ⅱ、乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ-Ⅰ、乳児保育Ⅱ-Ⅱ、健康Ⅰ、健康Ⅱ、人間関係、環境、言葉Ⅰ、言葉Ⅱ、表現A-Ⅰ、表現A-Ⅱ、表現B-Ⅰ、表現B-Ⅱ、養護内容、保育実践論、家庭管理、青年心理学、教育心理学、発達心理学、乳幼児心理学、臨床心理学、精神衛生、小児保健Ⅰ-Ⅱ、小児保健Ⅰ-Ⅰ、小児保健Ⅱ、小児保健Ⅲ、小児栄養学、小児栄養学実習、社会福祉、社会福祉演習、児童福祉、保育演習、教育実習Ⅰ-Ⅱ(付属こまくさ幼稚園)、教育実習Ⅲ(私立水道橋くるみ幼稚園)、保育実習Ⅰ-Ⅰ(精薄児施設希望ヶ岡学園)、保育実習Ⅰ-Ⅱ(私立善友保育園)、保育実習Ⅱ(市中野保育園)、修得単位：105、概評：優

幼稚園教諭二種免許、保育資格を取得(収容施設の保育資格も含む)、専門教育科目は全てとりました。また実習を通して、実際に現場を見ることができ、とても勉強になりました。この他に障害児に関する研修会や、岩手県私立幼稚園連合会が主催する研修会に何回か参加し、現在の日本の幼児教育の実状や様々な問題点をまのあたりにできました。成績も二番で卒業出来ましたので、満足しています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

短期大学では、私が当初の研修計画で望んでいた以上のものを与えてくれました。必要な専門

知識の他に、一番の収穫だったのは、社会福祉に関する知識でした。南米では、あまり触れられなかったことなので、日本では障害児教育には大いに興味をひかれ、勉強させていただきました。これは、今後の私の課題にもなります。また、余暇を利用して、音楽活動、ボランティア活動、読書等、公共施設等活用して、存分に勉強ができました。

欲を言えば、活気のない短大だったので、自分から求めて行動をしなければならぬにも出来ずに終わっていたかもしれません。私は短大でのバレーボール部に所属し、放課後は毎日夜の九時頃まで練習していたので、たいへん充実しました。ピアノの方でも、先生に恵まれ、基礎から丁寧に教わったので上達しました。

7. 本邦での生活状況

短大の寮に入ったわけですが、自治寮でしたので、役員を決めて様々な仕事を分担して運営していく形でした。その役員に入寮以来ずっと2年間たずさわってきたので、クラブ活動との両立は大へんでしたが、集団生活の楽しさ、難しさを身にしみて分かりました。また、寮に入ったおかげで他の学科の人達とも交流がもて、情報も交換し合うことができたので、一般の自宅生よりは幅広く行動できたと思います。ただ、日本の気候のせいかと思いますが、かぜをひきやすくなり、体調が安定していなかったです。短大生活、クラブ活動、寮生活と2年間、ハードなスケジュールでしたが、学ぶことはたくさんありましたので、とても充実していました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これは短期大学に入る人に限定されてしまいますが、日本語の新聞を読めるくらいの日本語の能力があれば、行動範囲が広がり、それだけ、学ぶことも多くなってきます。短大は、講義の方が中心で現場には実習期間以外は、見る機会がないので、休みはできるだけ、自分から幼稚園や保育園に行って体で覚えることが望ましいと思います。

9. 帰国後の計画

幼児教育に関する勉強、そして、障害児教育に関する知識を、更に重ねていきたいと思い、短大で勉強したことを基礎として、2～3年は日本の現場に入ります。一人前の保育になるには3年必要であると言われていきますので、幼稚園の経営等も見ながら実践を積んでいきたいと思いません。

10. 所感

日本は、教材も豊富で、手に入りやすく、勉強する側としてはやりがいがありました。生活面では、南米で生活してきた者にとって、日本の学生はぜいたくな気分がしました。このような環境にそまらず、次の研修生には質素な生活を送ってほしいと願っています。何にお金をかけるかよく考えてから行動してほしいです。私はこの二年間、先生や友達等環境に恵まれ、違和感なく過ごせて、ありとあらゆるものを吸収をしようと思いました。二年まえよりは、あらゆる面において自分がひとまわり成長しました。このような機会を与えて下さった、JICAの方々に対して感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

第20回移住者子弟一般技術研修員一覧表

平成2年度(第20回)移住者子弟

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
1	アルゼンティン	ラ・プラタ	生駒浩樹 イクル フキゲン	男	1966. 2. 23 (24)	日・ア	香川 野	菜
2		ヴィエドゥマ	伊藤 伊知雄	男	1965. 2. 8 (25)	アルゼンティン	静岡 果	樹
3		ガルアペー	多田 加次郎 誠吾 (1990. 7. 25死亡)	男	1965. 3. 1 (25)	アルゼンティン	香川 果	樹
4		グレウ	中村 博子 ナカノ ヒロコ	女	1966. 3. 13 (24)	日・パ	宮崎 調理師	
5		ガルアペー	村上 ロサリア	女	1966. 3. 24 (24)	アルゼンティン	高知 果	樹
6	ボリヴィア	オキナワ第2	玉城 祐美 タマキ ユミ	女	1967. 5. 4 (22)	日・ボ	沖縄 農協簿記	
7		サマイパータ	鳥屋 智美 トリヤ トモミ	女	1972. 1. 12 (18)	日・ボ	長崎 花	葬
8		オキナワ第1	比嘉 明美	女	1969. 3. 9 (21)	日・ボ	沖縄 経	理
9	※	サン・ファン	本多 美也子	女	1969. 12. 11 (20)	日・ボ	長崎 幼	児教育
10	ブラジル (ベレーン)	ベレーン	穎川 真由美 ヒノカミ マユミ	女	1966. 2. 9 (24)	ブラジル	長崎 コンピュータ	
11	※	イガラッパース	工藤 公仁 コウジウキ トキミ	男	1970. 5. 22 (19)	ブラジル	青森 コンピュータ	
12		マナオス	貞 弘 和彦	男	1961. 7. 20 (28)	ブラジル	石川 電	気工学
13	※	マナオス	吉野 澄恵	女	1967. 4. 16 (22)	日 本	埼玉 幼	児教育
14	(リオ・デ・ジャネイロ)	ペロ・オリゾンテ	宮崎 加次郎 ミヤザキ カジヲ	男	1971. 9. 25 (18)	日・ブ	熊本 本 長崎	コンピュータ
15		クビチェック	井関 セルジオ イワセ セルジウ	男	1967. 9. 9 (22)	ブラジル	愛媛 畜	産
16	(サンパウロ)	クリチバ	植西 あゆみ ウエニシ アユミ	女	1966. 4. 8 (23)	ブラジル	北海道 病	理 学
17		サン・パウロ	佐藤 美紀	女	1967. 1. 10 (23)	ブラジル	宮城 看	護

一般技術研修員(前期)

研修期間: 1990. 4. 2~1991. 3. 31
ただし※5名は1990. 4. 2~1992. 3. 27
年 齢: 1990. 4. 2現在

研修機関	〒	所在地	代表者名	TEL
(1)京都大学農学部	606	京都府京都市左京区	農学部長	075-753-6012
(2)附属農場	569	北白川追分町 大阪府高槻市八丁畷町12-1	岩井 保 農場長 明 杉野	0726-85-0134
同上			同上	同上
(1)香川大学農学部	761-07	香川県木田郡三木町池戸2393	農学部長	08789-8-1411
(2)附属農場	763-23	香川県大川郡長尾町 昭和字谷乙300-2	谷場長 利一 北川 博敏	0879-52-2763
宮城県調理師専門学校	981	宮城県仙台市青葉区葉山町 1-10	校長 伊澤 平一	022-272-3131
近畿大学農学部附属農場	643	和歌山県有田郡湯浅町湯浅 2355-2	農場長 吉田 保治	0737-62-2953
大育情報ビジネス専門学校 情報経理本科	902	沖縄県那覇市大道77	理事長 石川 正一	0988-85-5311
岡山大学農学部	700	岡山県岡山市対馬1-1-1	農学部長 中村 裕之助	0862-52-1111
大育情報ビジネス専門学校 情報経理本科	902	沖縄県那覇市大道77	理事長 石川 正一	0988-85-5311
和泉短期大学児童福祉科	229	神奈川県相模原市青葉2-2-1	学長 花村 春樹	0427-54-1133
長崎コンピュータ専門学校 プログラマ科	852	長崎県長崎市松山町4-40	学校長 別当 俊	0958-49-0001
青森中央短期大学 経営情報学科	030-01	青森県青森市横内神田12	学長 小野 正文	0177-38-2415
三洋電気株式会社 オーディオ事業部	555	大阪府大阪市西淀川区御幣島 3-1-9	学長 日裏 静	06-472-1381
和泉短期大学児童福祉科	229	神奈川県相模原市青葉2-2-1	学長 花村 春樹	0427-54-1133
熊本工業専門学校 経営情報学科	862	熊本県熊本市長嶺町1351	学長 大久保 武雄	096-380-8645
愛媛県畜産試験場	797-12	愛媛県東宇和郡野村町阿下 7号156	場長 徳永 菅二	0894-72-0064
札幌医科大学附属病院 検査部	063	北海道札幌市中央区 南1条西16丁目	病院長 谷内 昭	011-611-2111
東北厚生年金病院	983	宮城県仙台市福室高砂10	院長 後藤 由夫	0222-59-1221

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
18		イジ・カ・カ	檀 和宣 <small>カサノリ</small>	男	1970. 9. 5 (19)	ブラジル	福岡	花卉
19		サン・パウロ	前田弘美 <small>イリナ</small>	女	1964. 12. 3 (25)	ブラジル	沖縄	生物学
20		ピエダーデ	指宿正義 <small>ササキ</small> (1990. 4. 9来日)	男	1967. 1. 30 (23)	ブラジル	宮崎	キウイフルーツ
21		イビウナ	佐藤清美 <small>サトウ</small> (1990. 4. 9来日)	女	1968. 9. 7 (21)	ブラジル	宮城	果樹・花卉
22		エリチ・バ・ミリン	鈴木耕一 <small>スズキ</small> (1990. 4. 9来日)	男	1968. 10. 6 (21)	ブラジル	山形	蔬菜
23		スザノ	土田光代 <small>ツチダ</small> (1990. 4. 9来日)	女	1969. 5. 27 (20)	ブラジル	秋田 長崎	蘭栽培
24		ピンドラマ	山川 豊 <small>カミヤマ</small> (1990. 4. 9来日)	男	1967. 5. 28 (22)	ブラジル	群馬	蔬菜
25	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ	矢島 緑	女	1966. 8. 20 (23)	日・ド	広島	コンピュータ
26	メキシコ	メキシコ	加藤 絵里	女	1963. 8. 13 (26)	メキシコ	神奈川	洋裁
27	パラグアイ	アルト・バラナ	山内 溜 <small>ヤマウチ</small>	男	1967. 9. 1 (22)	日・パ	高知	機械修理
28		ラ・コルメナ	星野真一 <small>ホシノ</small>	男	1971. 1. 15 (19)	パラグアイ	東京	家電修理
29	※	ラ・パス	松永末子	女	1968. 9. 20 (21)	パラグアイ	高知	幼児教育
30	※	アスンシオン	武藤 瑞穂	女	1970. 11. 13 (19)	日・ア	岩手	幼児教育
31	ペルー	リマ	大橋 明子 <small>オオハシ</small>	女	1965. 11. 27 (24)	ペルー	福島	プレハブ建築
32		リマ	古賀 行子 <small>コガ</small>	女	1958. 6. 30 (31)	ペルー	熊本	樹木無性繁殖 技術
33		リマ	山内 一男	男	1970. 4. 10 (19)	日本	熊本	デジタル 電子技術
34	在ウルグアイ 日本大使館	モンテヴィデオ	治田 美理 <small>サチ</small>	女	1969. 1. 29 (21)	日・ウ	新潟	宣伝広告

研修機関	〒	所在地	代表者名	TEL
福岡県農業総合試験場	818	福岡県筑紫野市大字吉木587	場長 古 城 斉 一	092-924-2936
北里大学病院	228	神奈川県相模原市北里1-15-1	病院長 坂 上 正 道	0427-78-8111
社団法人 国際農業者交流 協会	144 (773)	東京都大田区蒲田5-39-1 (徳島県小松島市 備前宮ノ内8-2)	会長 大河原 良 雄 (平井 貞浩)	03-5703-0251 (08853-7-3183)
同 上	(409-13)	(山梨県山梨郡勝沼町小佐手 2116)	(坂本 武敏)	(0553-44-0497)
同 上	(437-14)	(静岡県小笠郡大東町中 4823)	(渡辺 守男)	(0537-74-2059)
同 上	400-15	(山梨県東八代郡中道町 右左口3797)	(五味 善三)	(0552-66-2685)
同 上	283	(千葉県東金市菱沼183)	(土屋 修三)	(04755-8-3333)
同 上	433	(静岡県浜松市三幸町83-1)	(兼子 保峰)	(0534-36-8233)
ユニバーサル電子計算株式 会社	150	東京都渋谷区恵比須1-18-14	代表取締役 橋 本 勲	03-3444-9188
神奈川県立藤沢高等職業技 術校 アパレル技術系	251	神奈川県藤沢市川名290-2	校長 内 藤 彰	0466-25-2425
(1)エム・エス・ケー東急機 械株式会社 帯広支店 (2)北海道立帯広高等技術専 門学院	082 080-24	北海道河西芽室町東芽室 1005-3 北海道帯広市西24条北2丁目	支店長 織 方 征 紀 学院長 上 田 和 正	0155-62-2411 0155-37-2319
株式会社 ムラウチ	192	東京都八王子市大和町 5-1-21	代表取締役 村 内 寿 一	0426-42-6211
高知女子大学保育短期大学 部	780	高知県高知市大原町132	部長 島 村 義 一	0888-33-2918
岩手県立盛岡短期大学 保育学科	020	岩手県盛岡市住吉町1-48	学長 滝 浦 静 雄	0196-23-2441
建設省建築研究所 第四研究部	305	茨城県つくば市立原1	所長 小 泉 重 信	0298-64-2151
農林水産省森林総合研究所 生物機能開発部	305	茨城県稲敷郡茨崎町松の里1	所長 小 林 富 上 雄	0298-73-3211
東京都立工業高等専門学校	140	東京都品川区東大井1-10-40	校長 加 藤 宏	03-3471-6331
株式会社新潟デザインセン ター	951	新潟県新潟市寄居町697	代表取締役社長 泉 田 洋	025-228-2647

平成2年度(第20回)移住者子弟

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種	
1	アルゼンティン	ラ・プラタ	生駒 浩樹 イノムラ ヒロキ	男	1966. 2. 23 (25)	日・ア	香川 野	菜	
2		ヴィエドゥマ	伊藤 利夫 イトウ リウ	男	1965. 2. 8 (26)	アルゼンティン	静岡 果	樹	
3		グレウ	中村 博子 ナカムラ ヒロコ	女	1966. 3. 13 (25)	日・パ	宮崎 調	理 師	
4		ガルアペー	村上 ロサリア	女	1966. 3. 24 (25)	アルゼンティン	高知 果	樹	
5	ボリヴィア	オキナワ第2	玉城 邦子 たましろ くにこ	女	1967. 5. 4 (23)	日・ボ	沖縄 農	協 簿 記	
6		サマイパータ	鳥屋 智美 トリヤ トモみ	女	1972. 1. 12 (19)	日・ボ	長崎 花	産	
7		オキナワ第1	比 嘉 明 美	女	1969. 3. 9 (22)	日・ボ	沖縄 経	理	
8	※	サン・ファン	本 多 美 也 子	女	1969. 12. 11 (21)	日・ボ	長崎 幼	児 教 育	
9	ブラジル (ベレーン)	ベレーン	頼川 真由美 たのかわ まゆみ	女	1966. 2. 9 (25)	ブラジル	長崎 コン	ピ ュ ー ク	
10		イガラッパース	工藤 公仁 こうどう こうじん	男	1970. 5. 22 (20)	ブラジル	青森 コン	ピ ュ ー ク	
11		マナオス	貞 弘 和 彦	男	1961. 7. 20 (29)	ブラジル	石川 電	子 工 学	
12		マナオス	吉 野 澄 恵	女	1967. 4. 16 (23)	日 本	埼玉 幼	児 教 育	
13	(リオ・デ・ジャネイロ)	バロ・オリゾンテ	宮崎 加路 征人 みやまき かろし せいじん	男	1971. 9. 25 (19)	日・ブ	熊本 本	長崎 コン	ピ ュ ー ク
14		クビチェック	井関 セルジオ いせき せいじお	男	1967. 9. 9 (23)	ブラジル	愛媛 畜	産	
15	(サンパウロ)	クリチバ	植西あゆみ うゑにし あゆみ	女	1966. 4. 8 (24)	ブラジル	北海道 病	理 学	
16		サン・パウロ	佐 藤 美 紀	女	1967. 1. 10 (24)	ブラジル	宮城 看	護	

一般技術研修員(後期)

研修期間: 1991. 4. 1~1991. 9. 27
ただし※5名は1991. 4. 1~1992. 3. 27
年 齢: 1991. 4. 1現在

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
近畿大学農学部	631	奈良県奈良市中町3327-204	総長 世耕 政 隆	0742-43-1511
(1)京都大学農学部	606	京都府京都市左京区	農学部長 岩 井 保 明	075-753-6012
(2)附属農場	569	北白川追分町 大阪府高槻市八丁畷町12-1	農場長 杉 野 明	0726-85-0134
和食店「五ツ橋 藤」	980	宮城県仙台市青葉区五橋 2-4-16	経営者 加 藤 倫 子	022-262-9496
近畿大学農学部附属農場	643	和歌山県有田郡湯浅町湯浅 2355-2	農場長 吉 田 保 治	0737-62-2953
沖縄花王販売株式会社	901-21	沖縄県浦添市西洲1-11-1	取締役社長 儀 間 恒 雄	098-877-1722
第一園芸株式会社	150	東京都渋谷区渋谷1-1-4	代表取締役社長 中 原 壮 大	03-3409-6671
(1)神奈川県植農協同組 合連合会	231	神奈川県横浜市中区海岸通り 1-2-2	会長理事 高 山 一 夫	045-201-4912 ext. 2428
(2)同連合会農協教育センタ	254	神奈川県平塚市高根141	館長 武 藤 時 秋	0463-32-3636
和泉短期大学児童福祉科	229	神奈川県相模原市青葉2-2-1	学長 花 村 春 樹	0427-54-1133
長崎コンピュータ専門学校 プログラマ科	852	長崎県長崎市松山町4-40	学校長 別 当 俊	0958-49-0001
青森中央短期大学 経営情報学科	030-01	青森県青森市横内神田12	学長 小 野 正 文	0177-38-2415
三洋電気株式会社 オーディオ事業部	555	大阪府大阪市西淀川区御幣島 3-1-9	学長 口 裏 静	06-472-1381
和泉短期大学児童福祉科	229	神奈川県相模原市青葉2-2-1	学長 花 村 春 樹	0427-54-1133
ナカヤ株式会社	108	東京都港区芝浦2-6-16	システム事業部長 金 藤 進	03-3798-1671
(1)梶原農場 (91.4~91.6)	879-45	大分県玖珠郡玖珠町大字山下 822	場長 梶 原 博 之	09737-2-5277
(2)大分県経済農業協同組合 連合会肉牛飼育実験牧場 (91.7~91.9)	878-02	大分県直入郡久住町大字高畦	場所 伊 藤 伸 一	0974-77-2740
札幌医科大学附属病院 検査部	063	北海道札幌市中央区 南1条西16丁目	病院長 谷 内 昭	011-611-2111
東北厚生年金病院	983	宮城県仙台市福室高砂10	院長 後 藤 由 夫	0222-59-1221

No.	事務所	地区	氏名	性別	生年月日 (年齢)	国籍	両親等 出身地	研修職種
17		ロンドン	檀 芳枝 和宣	男	1970. 9. 5 (20)	ブラジル	福岡	花 卉
18		サン・パウロ	前田弘美 伊川	女	1964. 12. 3 (26)	ブラジル	沖縄	生 物 学
19		ピエダーデ	指 宿 正義 (1990. 4. 9来日)	男	1967. 1. 30 (24)	ブラジル	宮 崎	きのこ栽培
20		イビウナ	佐藤清美 (1990. 4. 9来日)	女	1968. 9. 7 (22)	ブラジル	宮 城	果樹・花卉
21		ベリサール・ミソ	鈴木 妙子 耕一 (1990. 4. 9来日)	男	1968. 10. 6 (22)	ブラジル	山 形	蔬 菜
22		スザノ	土田光代 ユスチナ (1990. 4. 9来日)	女	1969. 5. 27 (21)	ブラジル	秋 田	蘭 栽 培
23		ピンドラマ	山 川 豊 (1990. 4. 9来日)	男	1967. 5. 28 (23)	ブラジル	群 馬	蔬 菜
24	ドミニカ共和国	サント・ドミンゴ	矢 島 緑	女	1966. 8. 20 (24)	日・ド	広 島	コンピュータ
25	メキシコ	メキシコ	加 藤 絵 里	女	1963. 8. 13 (27)	メキシコ	神奈川	洋 画
26	パラグアイ	アルト・パラナ	山 内 溜	男	1967. 9. 1 (23)	日・パ	高 知	機 械 修 理
27		ラ・コルメナ	屋野真一 芳枝	男	1971. 1. 15 (20)	パラグアイ	東 京	家 電 修 理
28	※	ラ・パス	松 永 末 子	女	1968. 9. 20 (22)	パラグアイ	高 知	幼 児 教 育
29	※	アスンシオン	武 藤 瑞 穂	女	1970. 11. 13 (20)	日・ア	岩 手	幼 児 教 育
30	ペルー	リマ	大橋 淑子 英博	女	1965. 11. 27 (24)	ペルー	福 島	プレハブ建築
31		リマ	古賀 ケイ ショウヘイ	女	1958. 6. 30 (32)	ペルー	熊 本	樹木無性繁殖 技術
32		リマ	山 内 一 男	男	1970. 4. 10 (20)	日 本	熊 本	ディジタル 電子技術
34	在ウルグアイ 日本大使館	モンテビデオ	治 田 美 理	女	1969. 1. 29 (22)	日・ウ	新 潟	宣 伝 広 告

研 修 機 関	〒	所 在 地	代表者名	TEL
草場農園	838-01	福岡県小郡市古賀4188	園主 草 場 利 勝	0942-75-6748
北里大学病院	228	神奈川県相模原市北里1-15-1	病院長 坂 上 正 道	0427-78-8111
ミヤザキバイオ ファーム株式会社	889-14	宮城県児湯郡新富町大字口置 字太朗浜衛通2032-14	社長 菊 地 孝 光	0983-33-0107
社団法人 国際農業者交流 協会	144 (400-15)	東京都大田区蒲田5-39-1 (山梨県東八代郡中道町 右左口3797)	会長 大河原 良 雄 (五味 善三)	03-5703-0251 (0552-66-2685)
同 上	(444-11)	(愛知県安城市小川町福地 36)	(中嶋 光晴)	(0566-99-0727)
同 上	(470-12)	(愛知県豊田市福受町西側1)	(岡田 紘平)	(0565-21-1458)
同 上	(437-11)	(静岡県磐田郡浅羽町太郎助 792)	(安間 悦郎)	(0538-23-4473)
ユニバーサル電子計算株式 会社	150	東京都渋谷区恵比須1-18-14	代表取締役 橋 本 勲	03-3444-9188
神奈川県立藤沢高等職業技 術校 アパレル技術系	251	神奈川県藤沢市川名290-2	校長 菅 木 浩	0466-25-2425
北海道立室蘭高等技術専門 学院	050	北海道室蘭市東町3-1-11	学院長 中 原 忠 良	0143-44-3522
株式会社 ムラウチ	192	東京都八王子市大和町 5-1-21	代表取締役 村 内 寿 一	0426-42-6211
高知女子大学保育短期大学 部	780	高知県高知市大原町132	部長 島 村 義 一	0888-33-2918
岩手県立盛岡短期大学 保育学科	020	岩手県盛岡市住吉町1-48	学長 滝 浦 静 雄	0196-23-2441
ミサワホーム株式会社	168	東京都杉並区高井戸東2-4-5	取締役 木質設計部長 川 元 邦 親	03-3247-2046
農林水産省森林総合研究所 生物機能開発部	305	茨城県稲敷郡茎崎町松の里1	所長 小 林 富士雄	0298-73-3211
日本電気株式会社	270-11	千葉県我孫子市日の出1131	交換第二 ネットワークシステム 下 條 佑 一	0471-85-7206
株式会社新潟デザインセン ター	951	新潟県新潟市寄居町697	代表取締役社長 泉 田 洋	025-228-2647

ゆ う か り

©Japan International Cooperation Agency (JICA) 1992

1992年11月30日 発行

編集兼
発行者

国際協力事業団 移住事業部 国内事業課

〒163 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号

新宿三井ビル内 私書箱 216号

電 話 (03) 3346-5311 (代表)

印刷・製本 有限会社 盛光印刷所

〒102 東京都千代田区飯田橋4-6-3

電 話 (03) 3264-1851

JICA